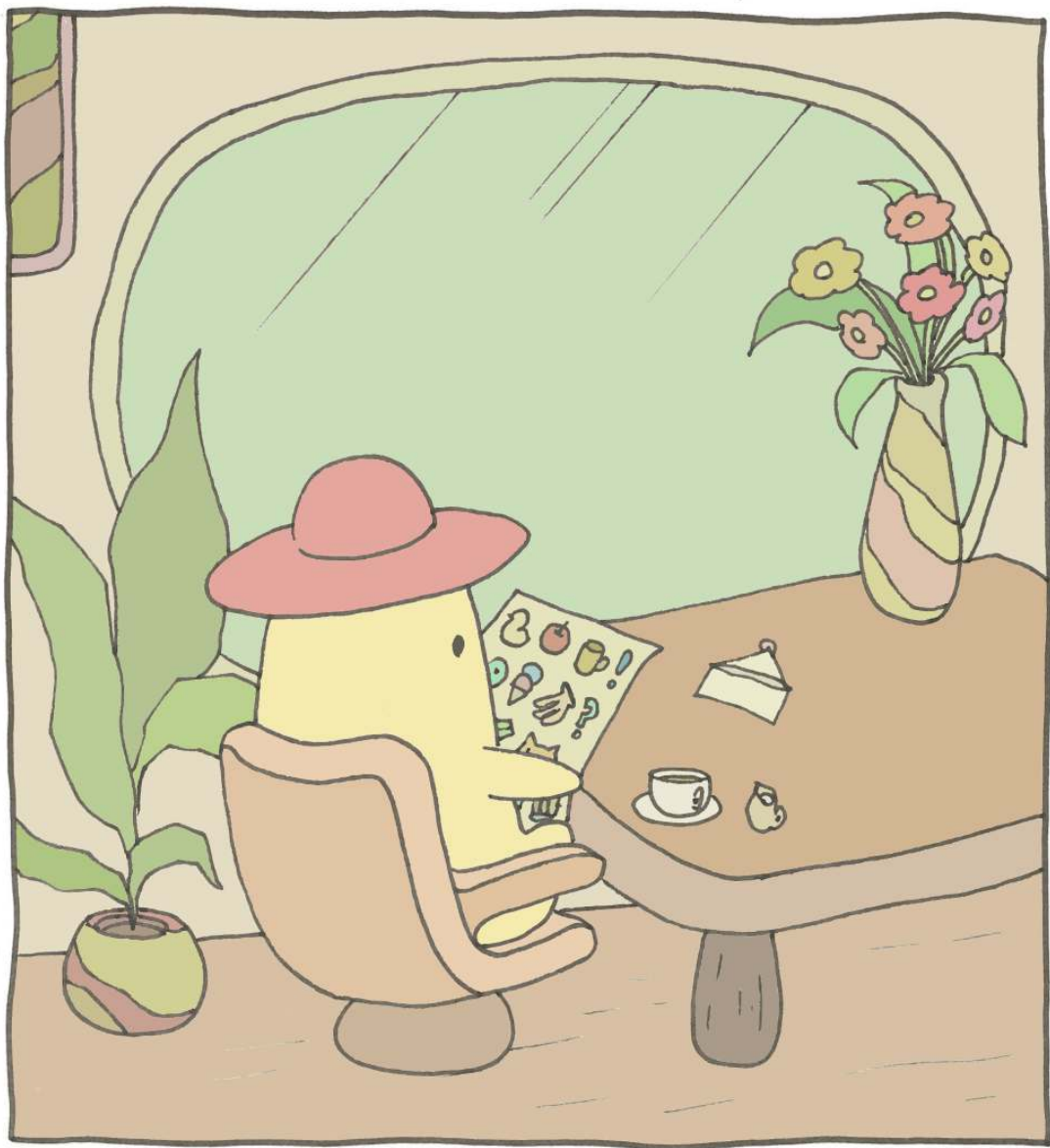
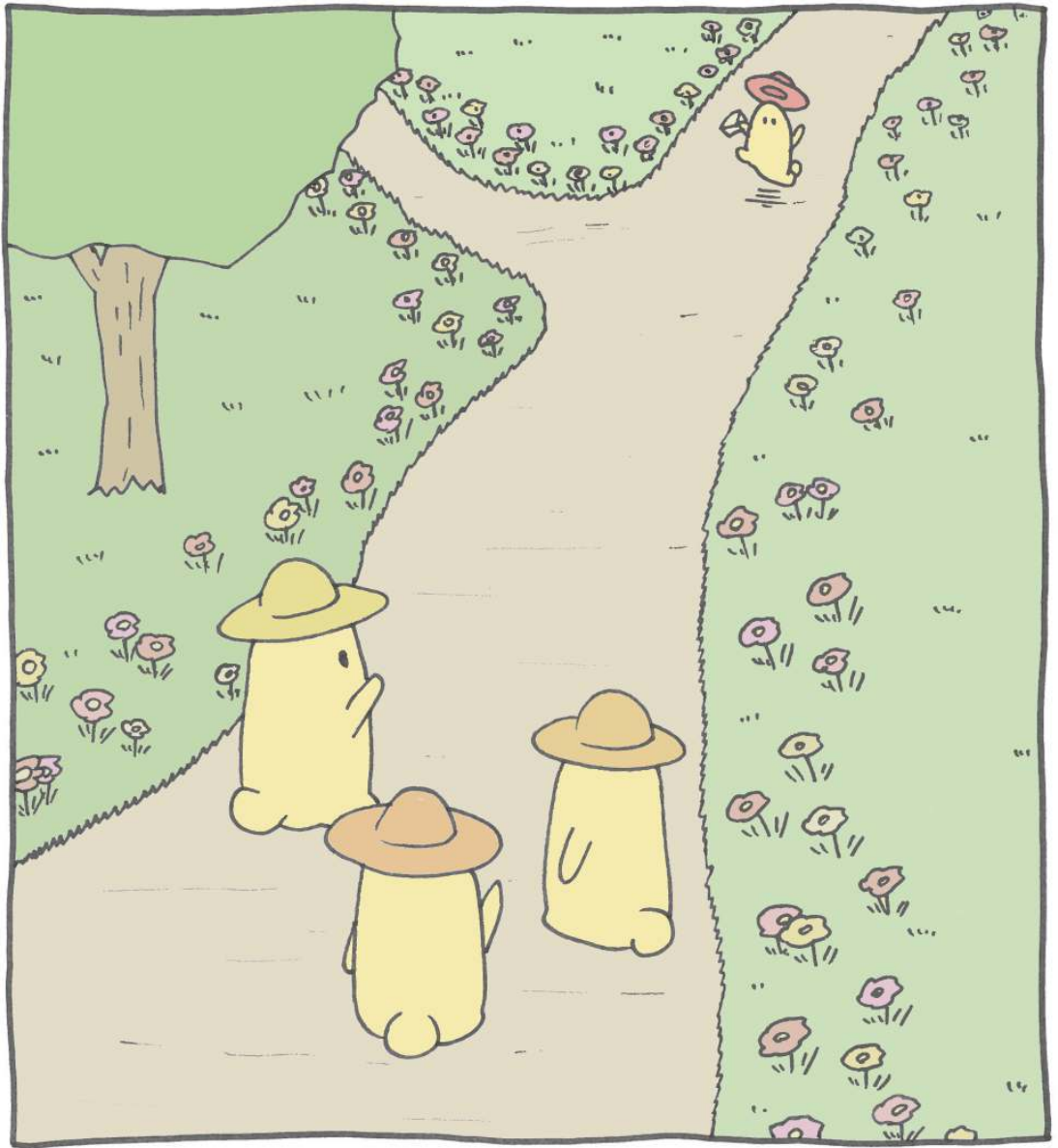


テトとせのたかいサル

リーデルミカ



ある日のこと テトは いっつうの てがみを  
うけとりました。それは テトの ともだちの  
サルからの てがみでした。そこには サルが  
ちかいうち テトの すんでいるまち テトラを  
おとずれると かいてありました。



テトは おおよろこびです。というのも サルは  
テトの とてもいい ゆうじんだった からです。  
テトは まちの ともだちに サルが くることを  
うれしそうに はなしました。

ある ゆうじんは テトに ききました。

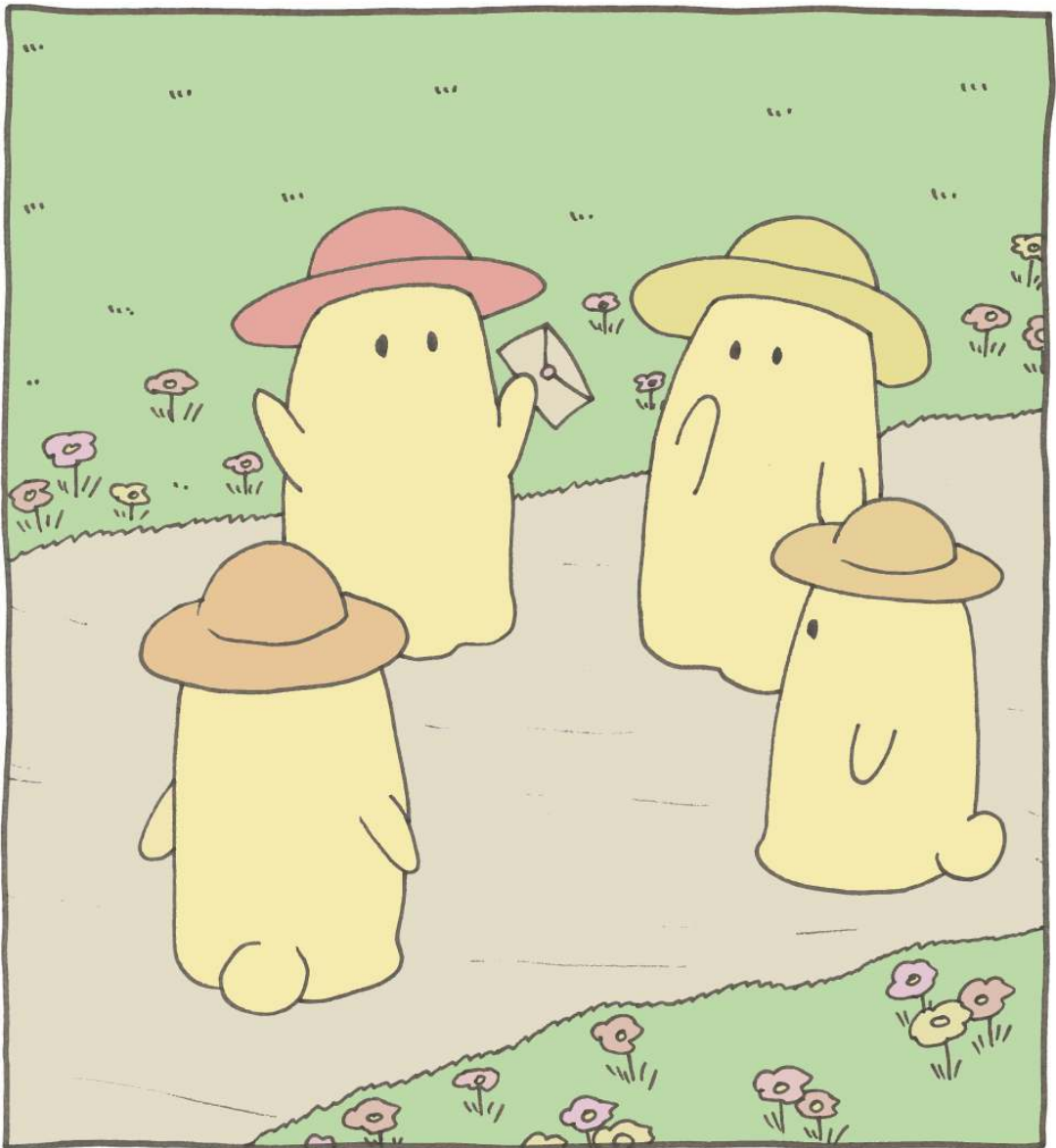
「サルって どんな テトラなの？」

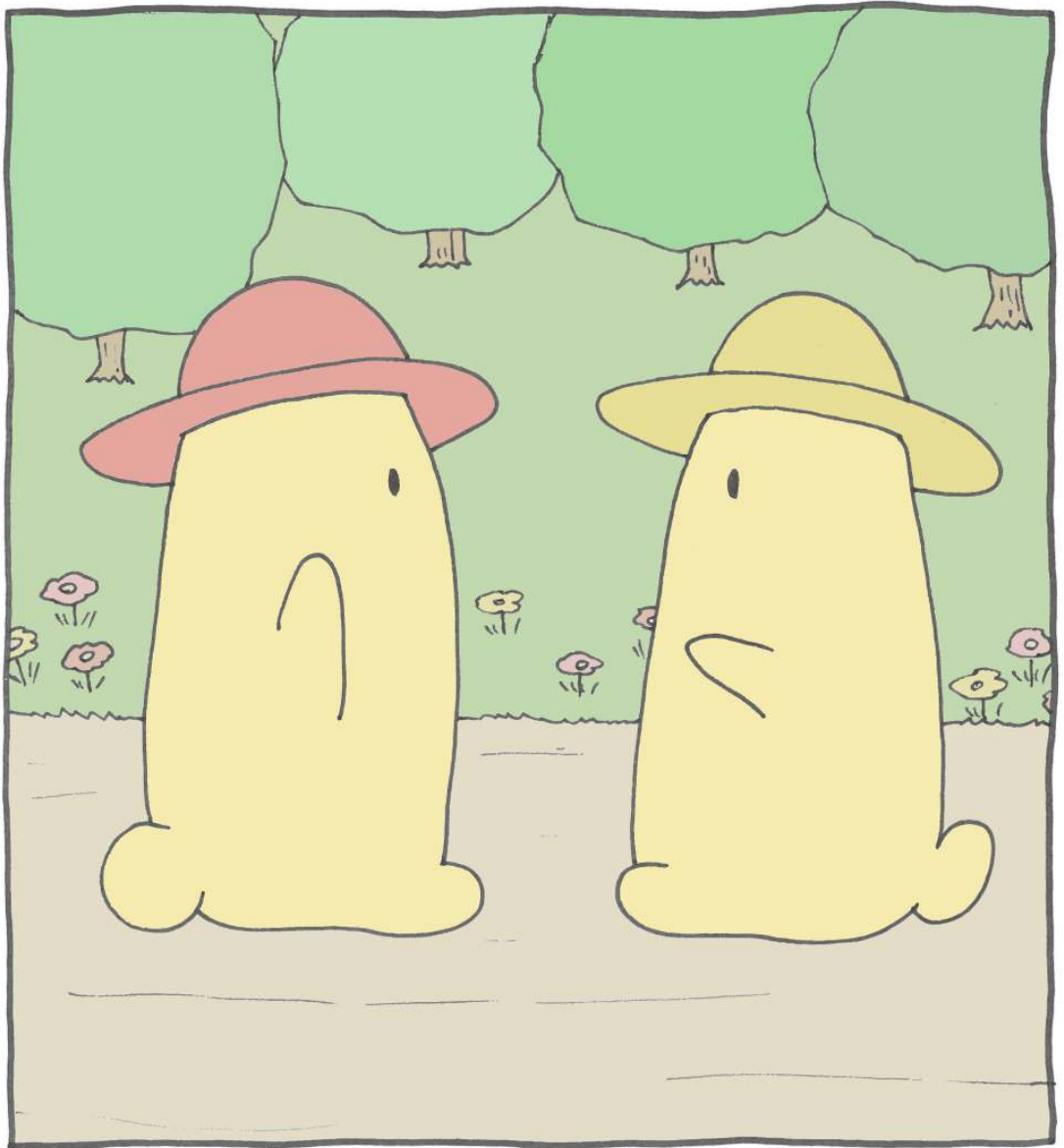
テトは こたえました。

「サルは テトラじゃないよ。」

「じゃあ サルって なんなの？」

「サルは サルだよ。 すごく せが たかいんだ。」



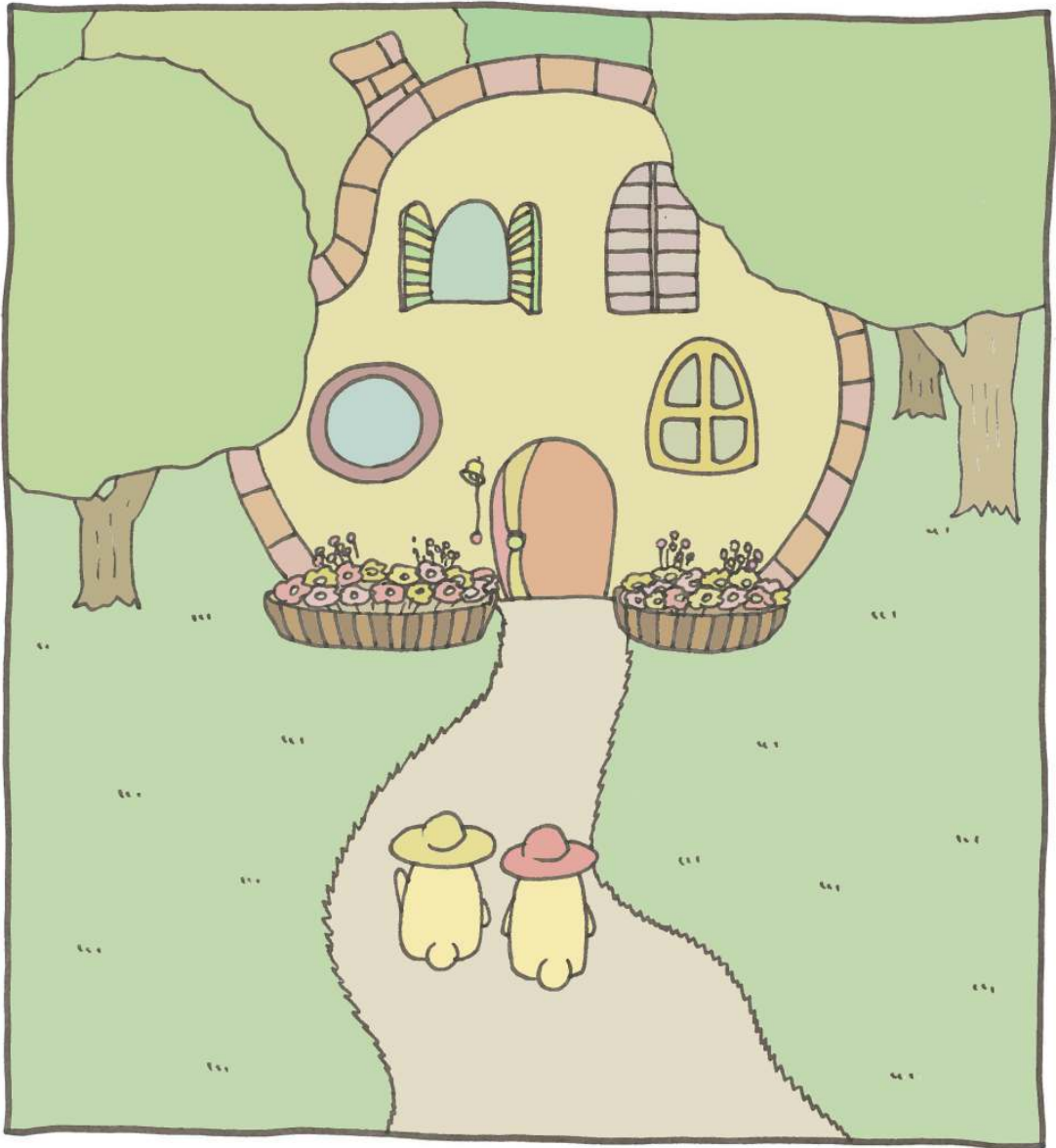


「どのくらい たかいの？」

「すごく。」

「うん、でも どのくらい？ ぼくの おにいちゃん  
よりも？」

「きみの おにいちゃんのこと しらないけど。」

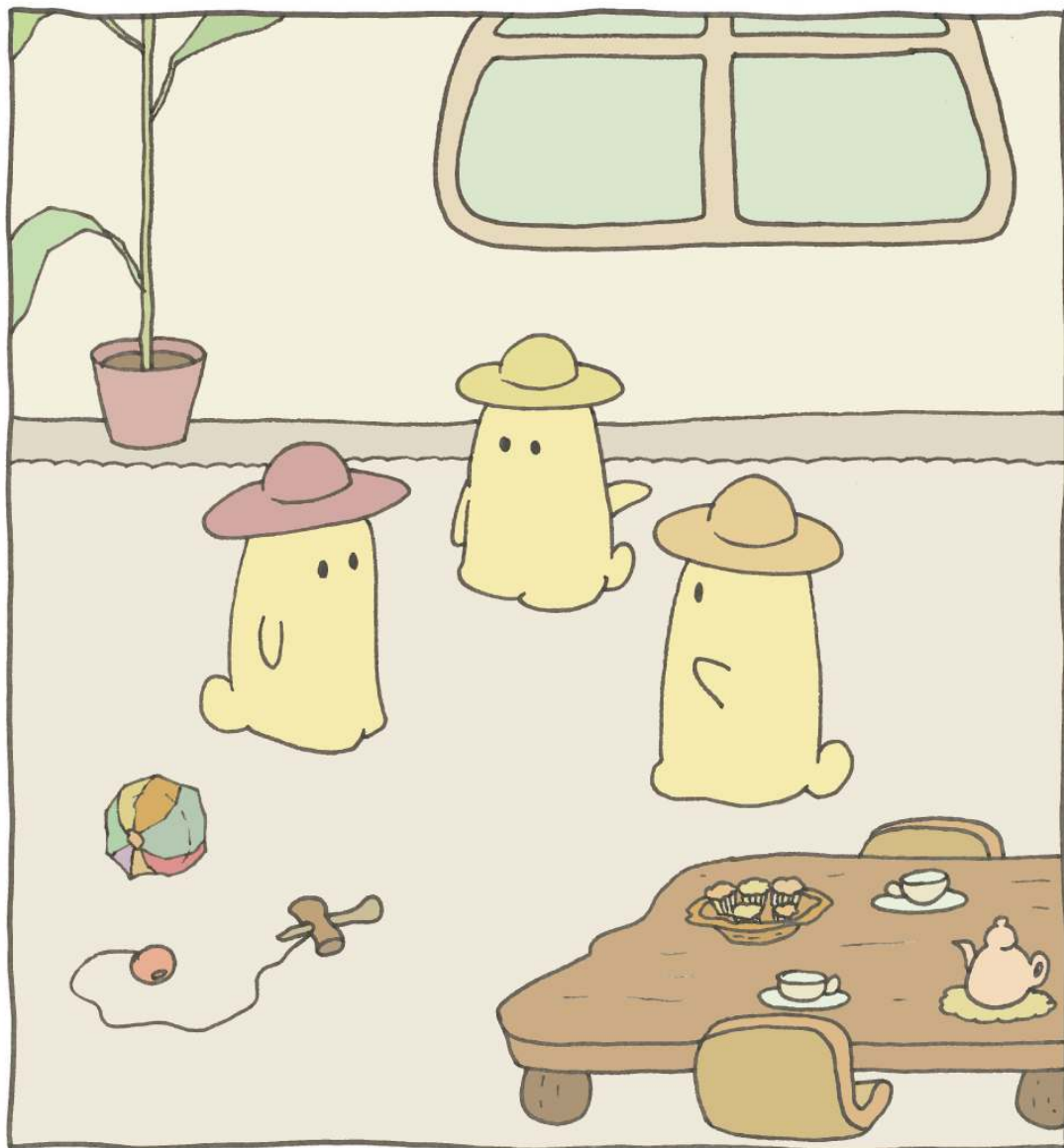


ゆうじんは いました。

「じゃあ うちに おいでよ。 おにいちゃん  
いま いえに いるよ。」

テトは いました。

「いいよ。」



ゆうじんは いいました。

「ぼくの おにいちゃん だよ。」

ゆうじんの おにいさんは テトに あいさつを  
しました。

「こんにちは！」

テトも あいさつを しました。

「...こんにちは。」



「サルは もっと せが たかいよ。」

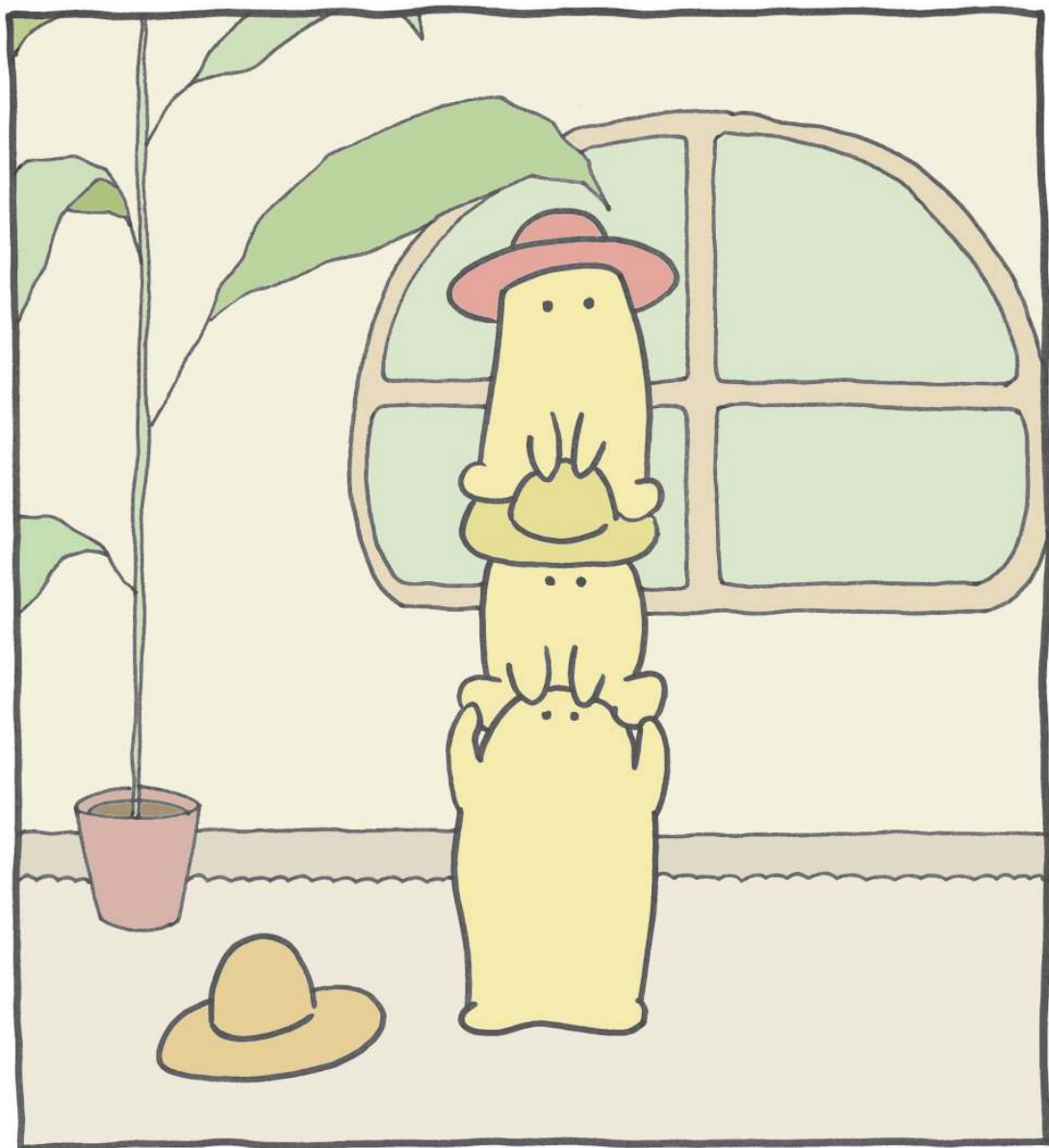
テトは いいました。

「え、ほんと？じゃあ これくらい？」

ゆうじんは おにいさんに かたぐるまを して  
もらいました。

「ううん、もっと たかいよ。」



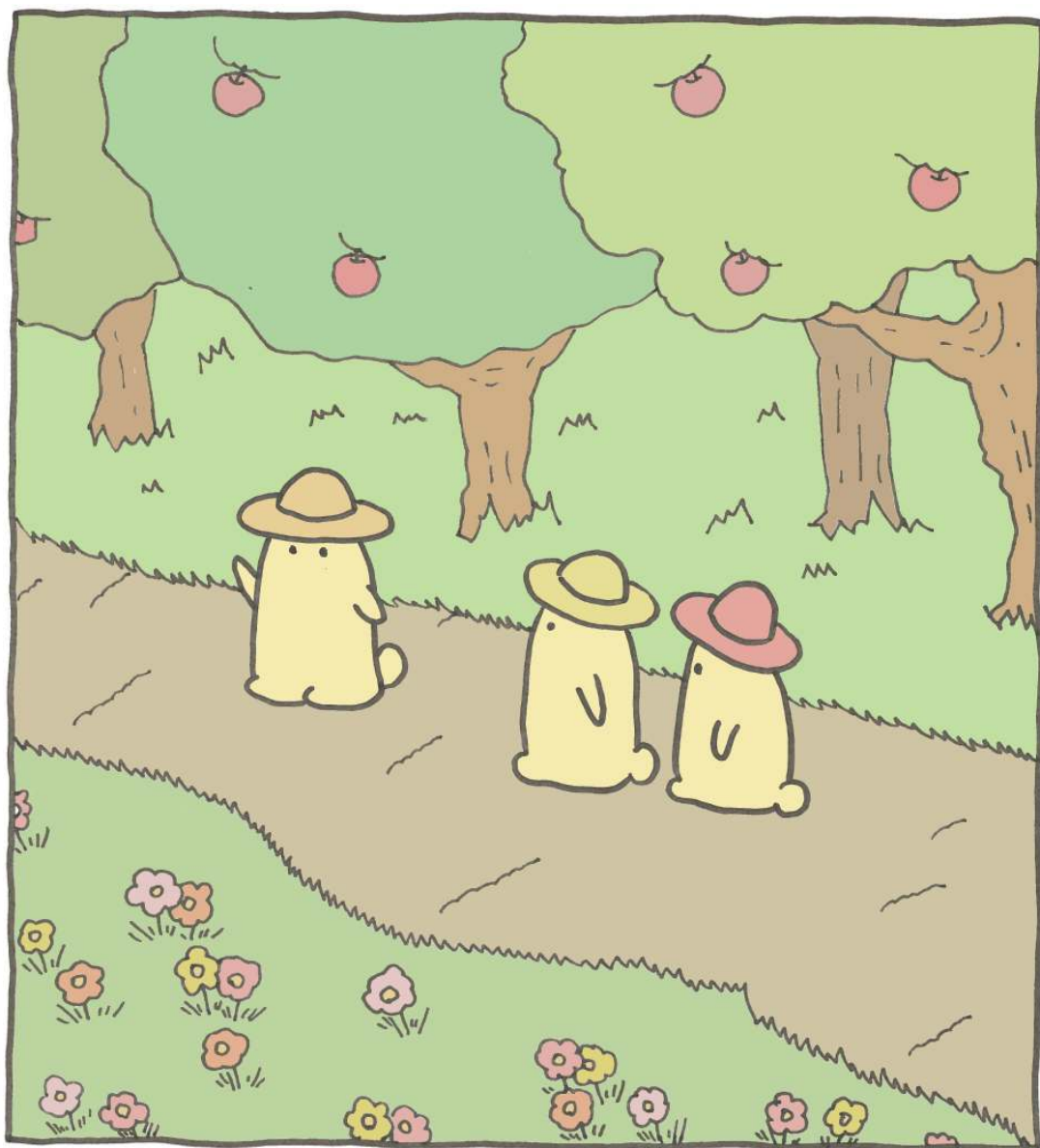


ゆうじんは テトも かたぐるま しました。

「じゃあ これくらい？」

テトは いいました。

「まだまだ だね。」



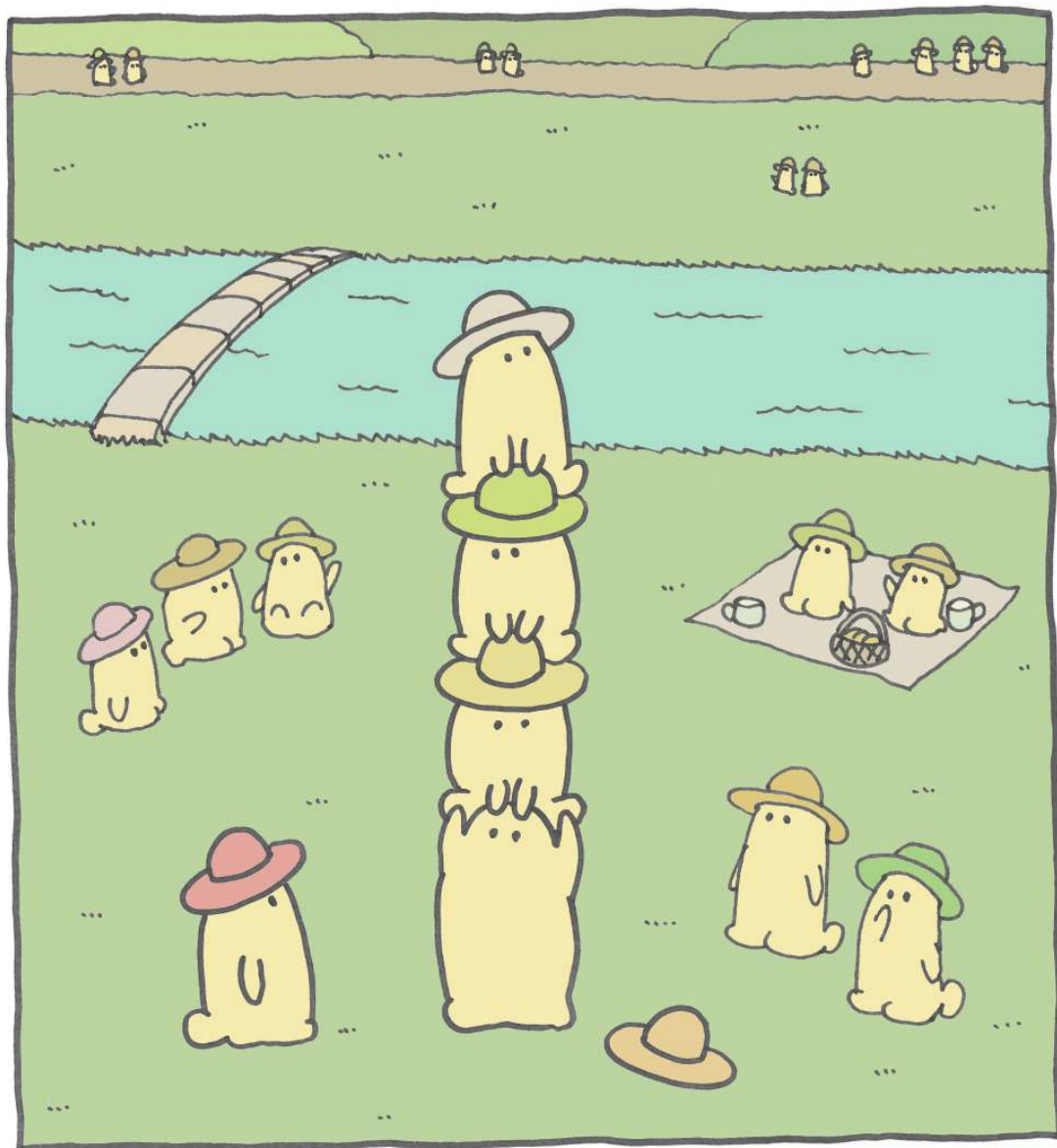
「じゃあ もっと かたぐるまする テトラが  
ひつようだね。」

ゆうじんは いいました。

「そうかもね…。」

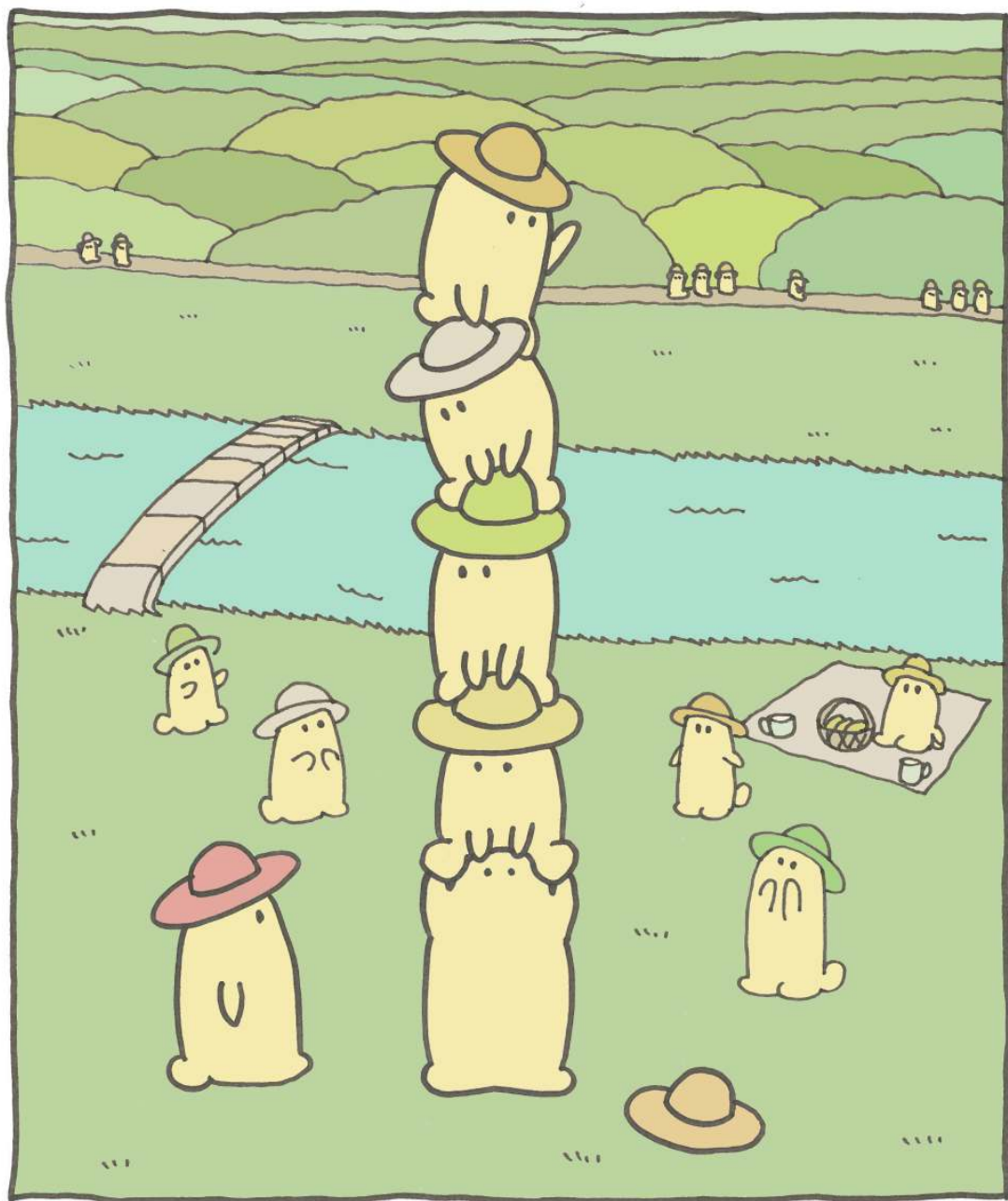
テトは こたえました。

るにんは まちに でした。



「じゃあ これくらい？」

「ううん。」

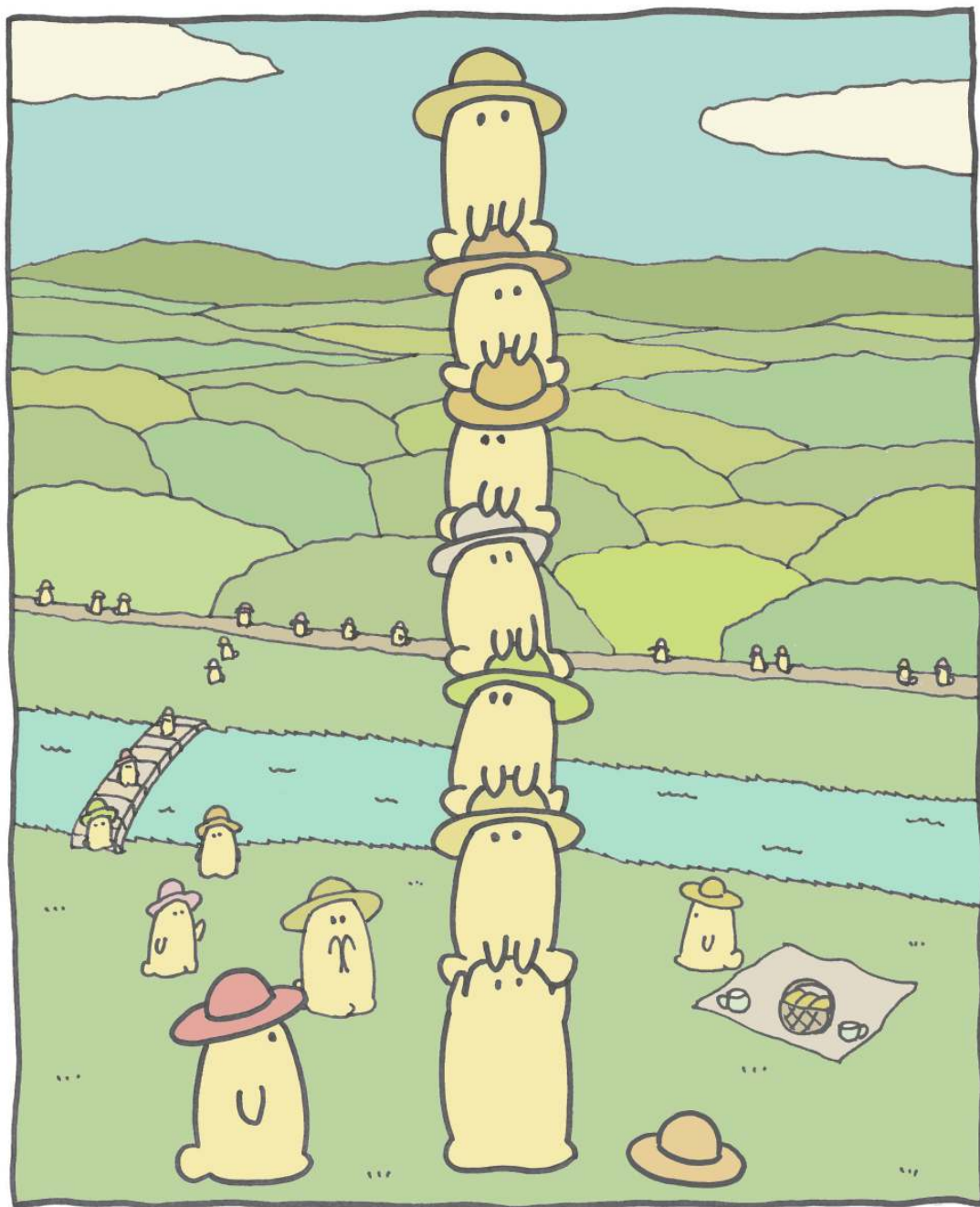


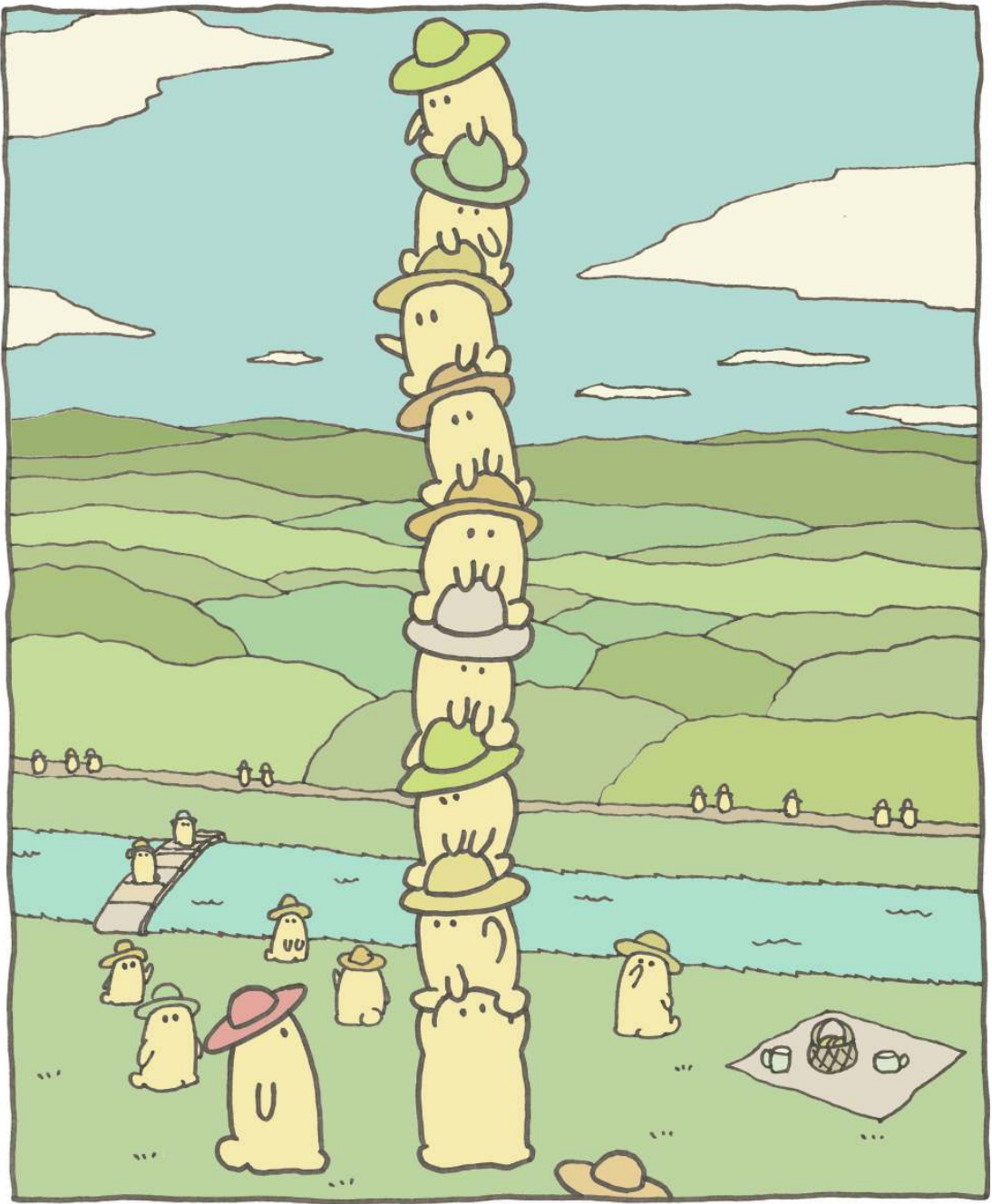
「じゃあ これでは？」

「ぜんぜん たりない。もっと たかいよ。」

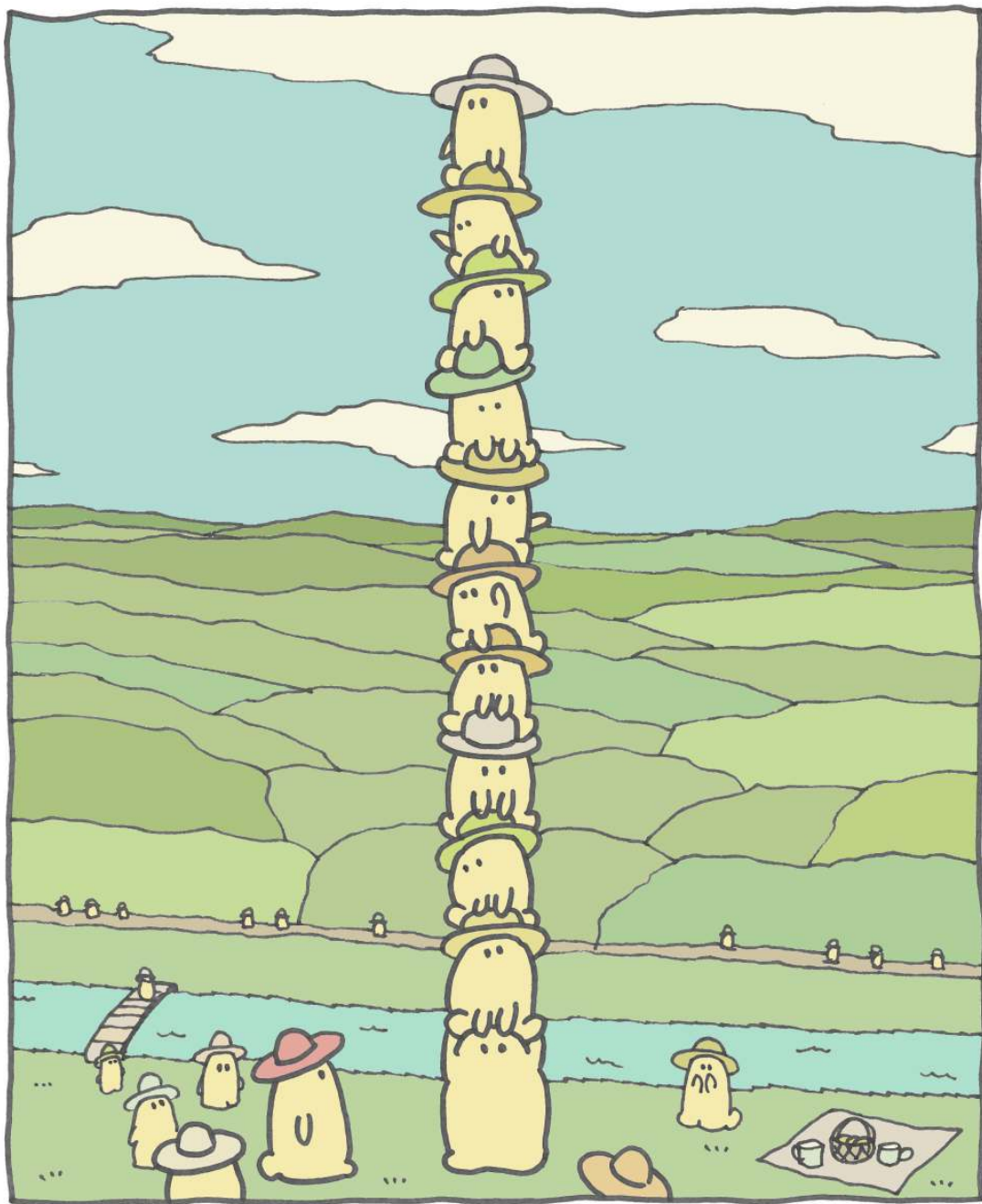
「これでは？」

「ぜんぜん。」



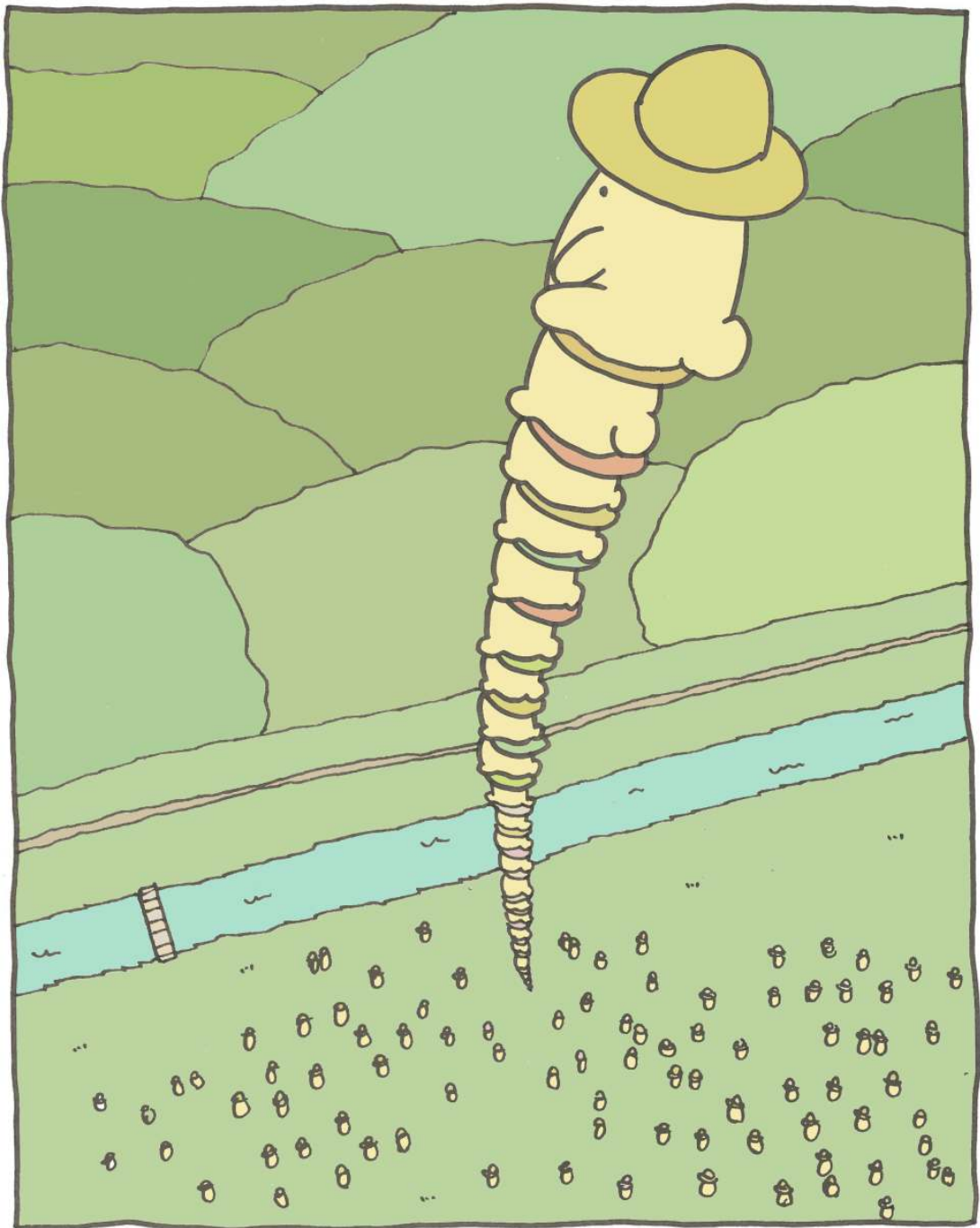


「ぜんぜん。」

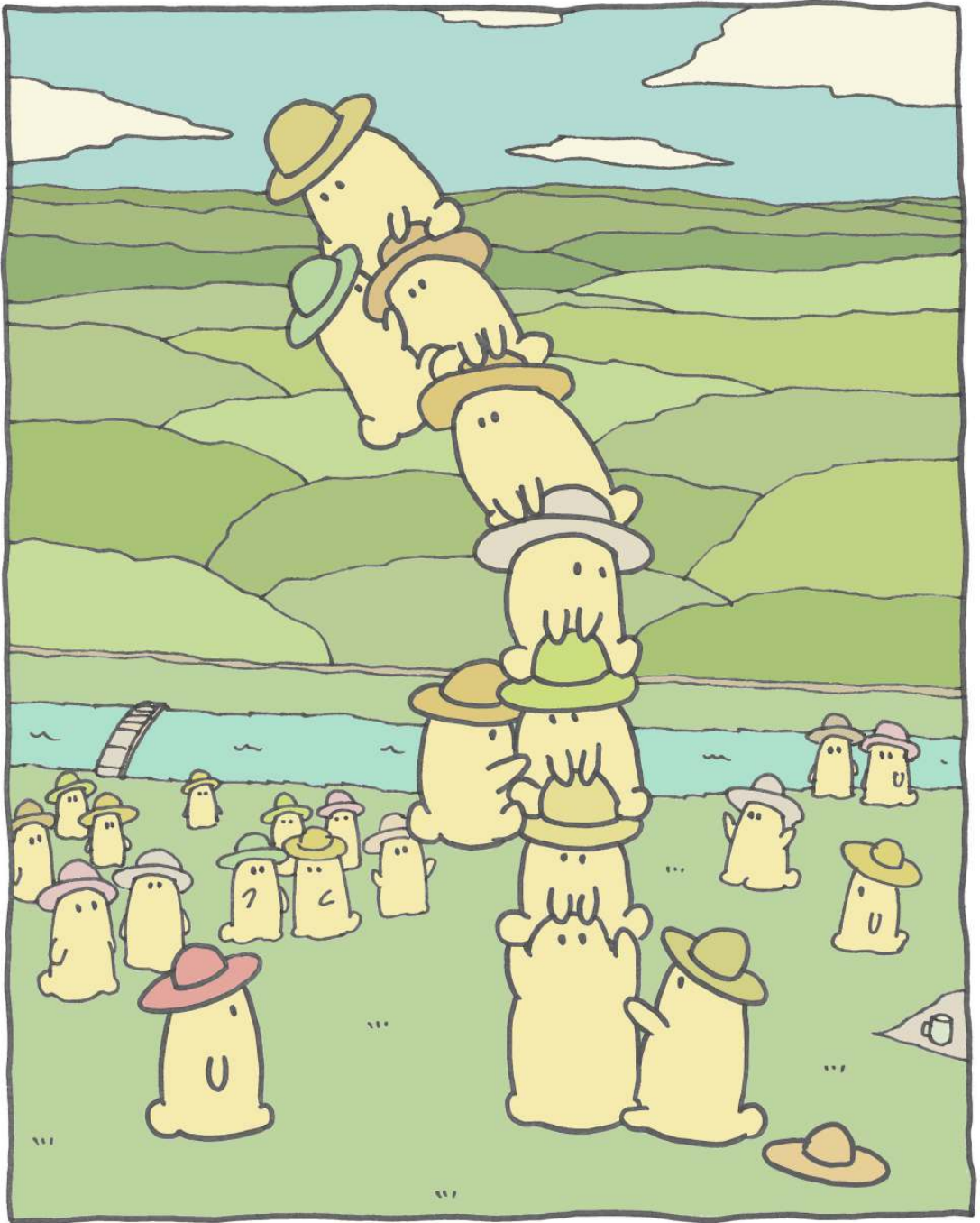


「ぜんぜん。」

「ぜんぜん。」



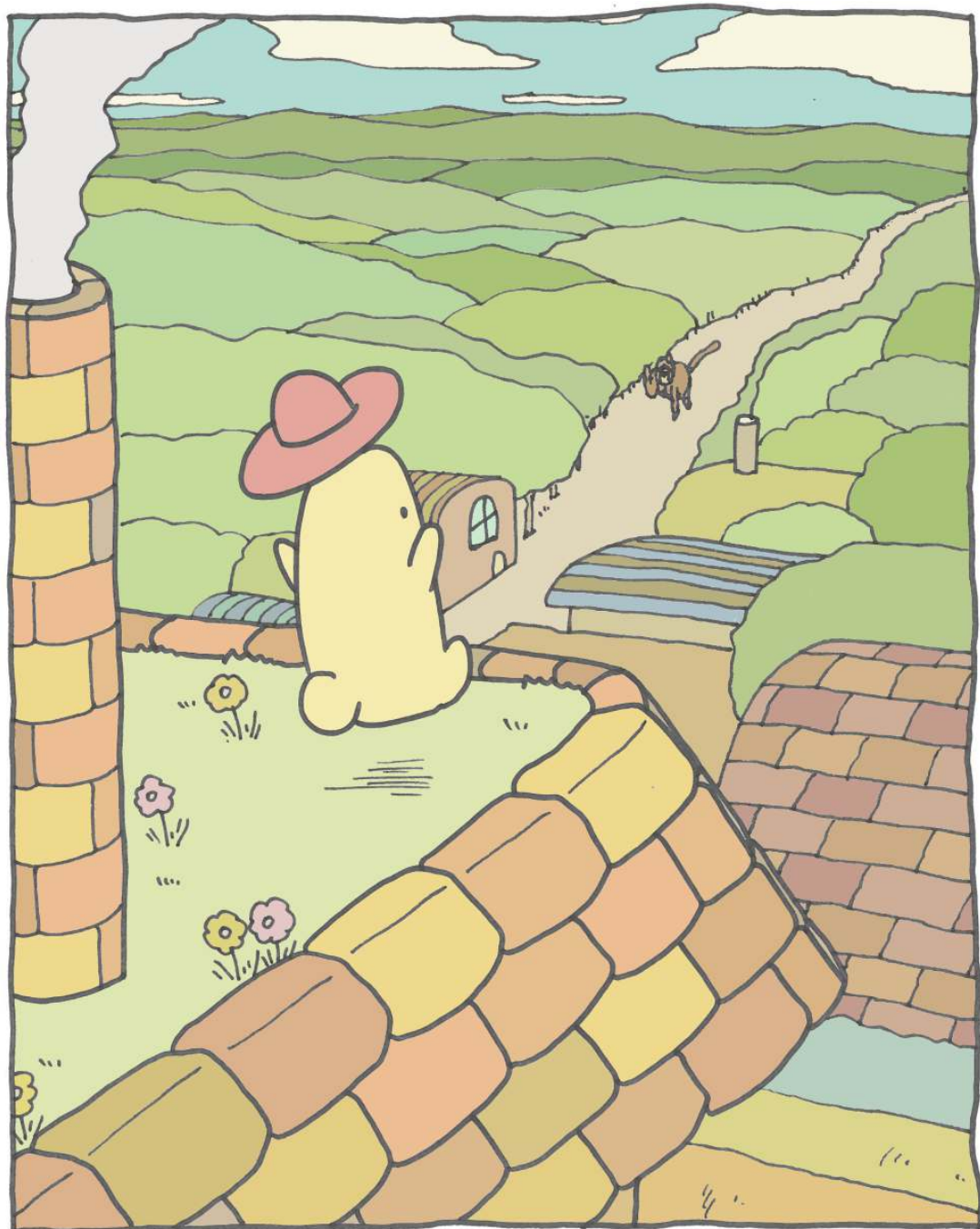




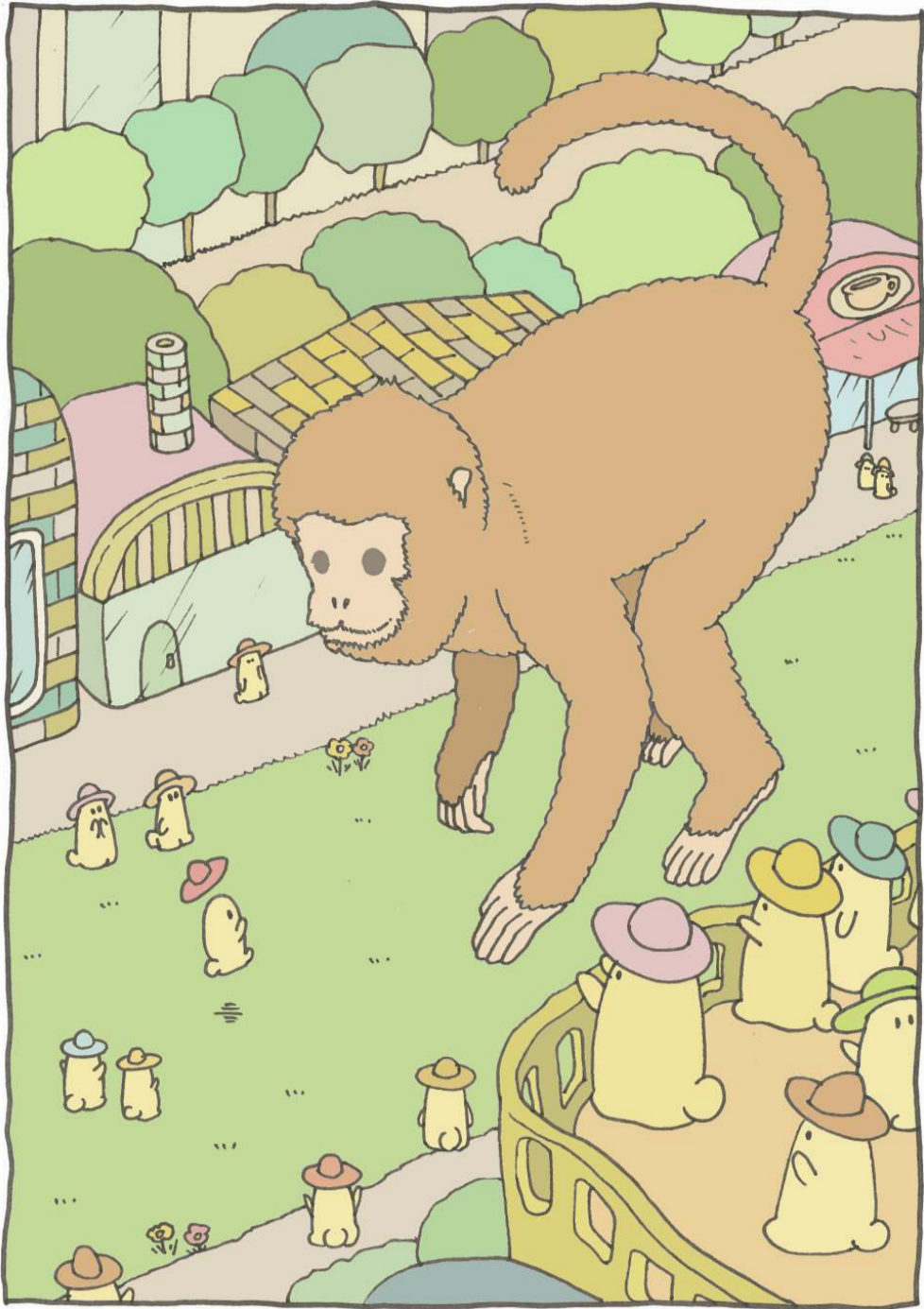
「あ、そう...。」



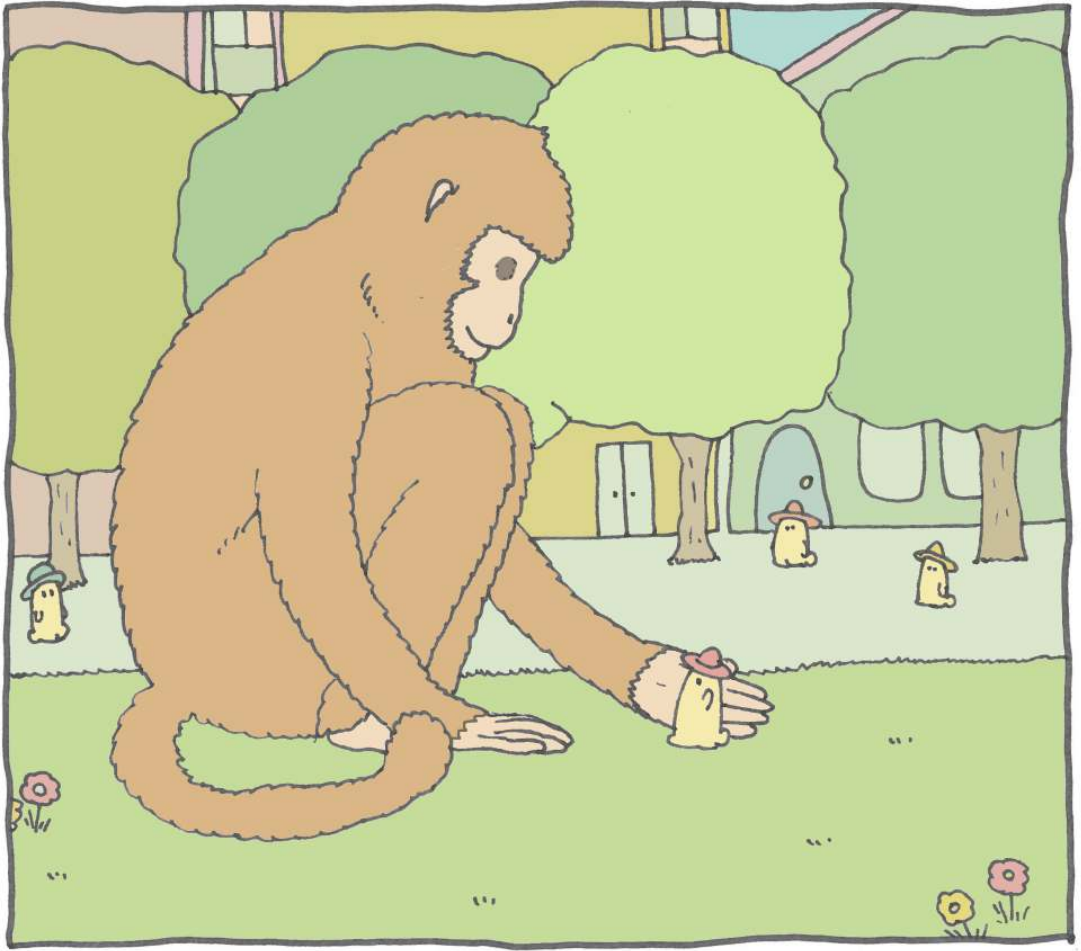
テトラたちは サルが やって来るひまで  
まつことに しました。



そして ついに そのひが やってきました!



テトラは みんな おおよろこびで サルを  
かんげいしました。



「ひさしぶり！サル、げんき だった？」

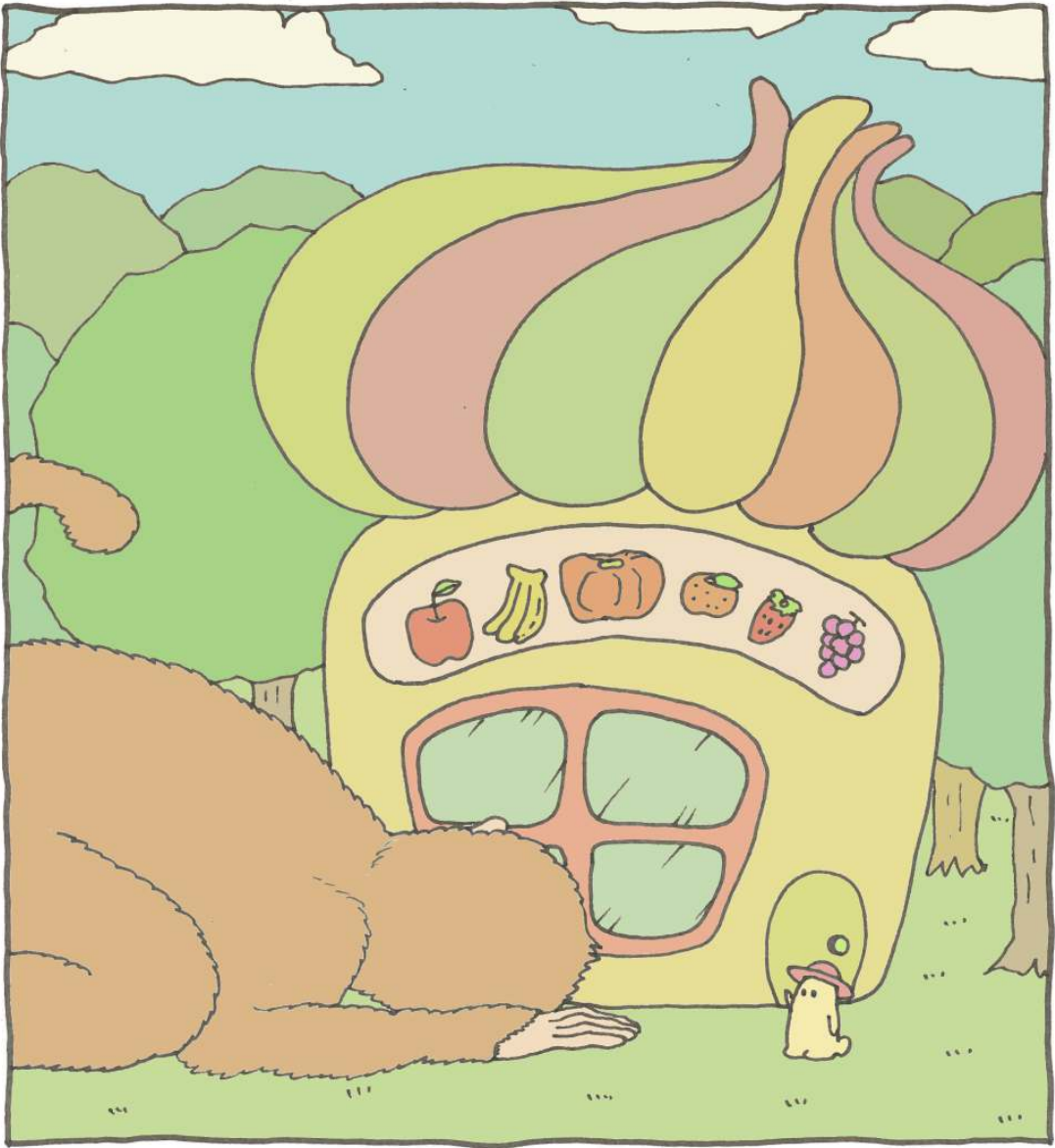
「ひさしぶり！げんきだったよ。テトは？」

「げんきだったよ！」

ふたりは ひさしぶりに あうことが できて  
とても よろこびました。

「ぼくが すんでいる テトラまちを あんない  
するよ！」

「うん。おねがい！」



「ここが ぼくが よくいく やおやさん なんだ。」

テトが いいました。

「いいねえ！ やさいも くだものも とても  
しんせんだね！」

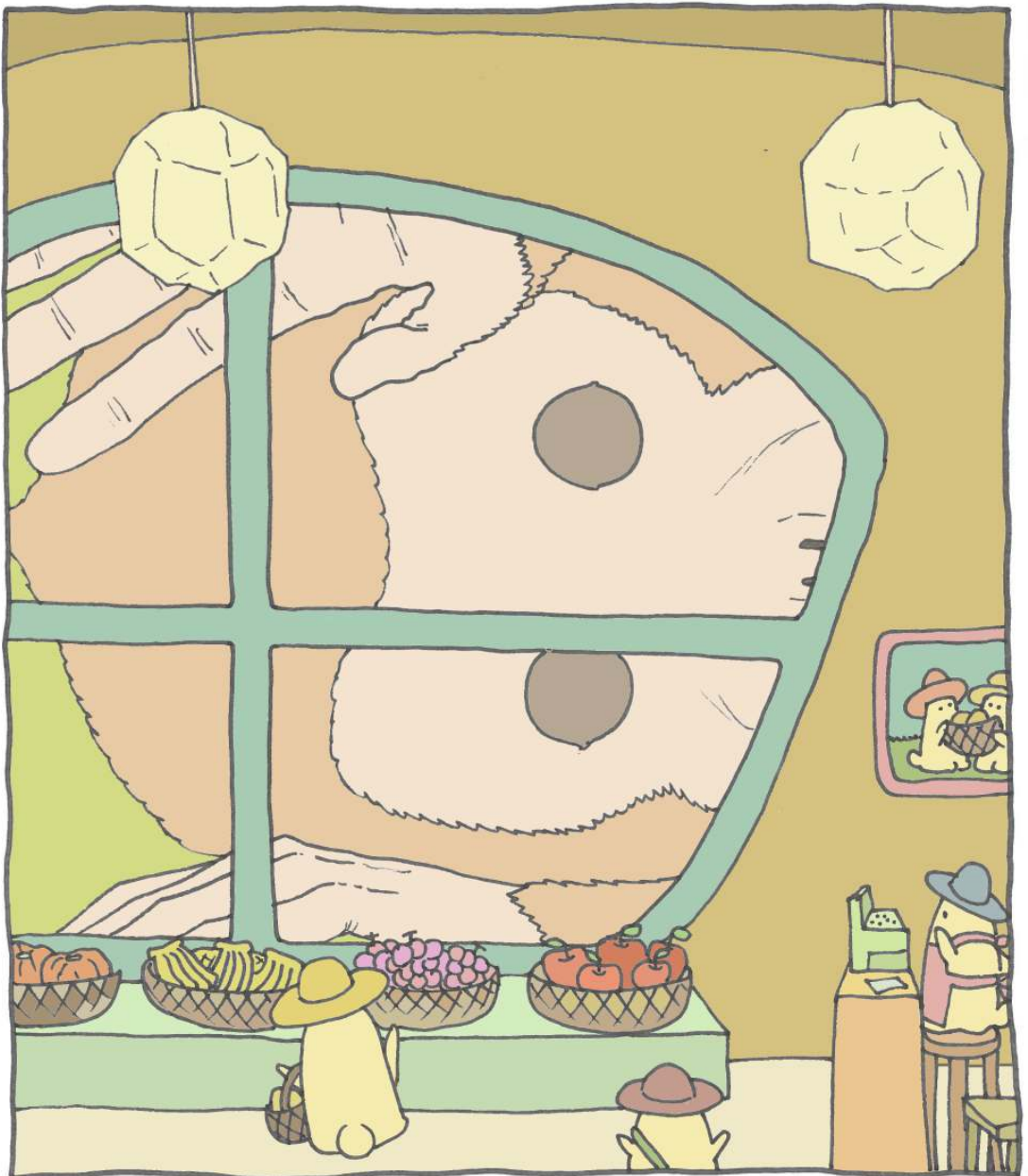
サルが いいました。

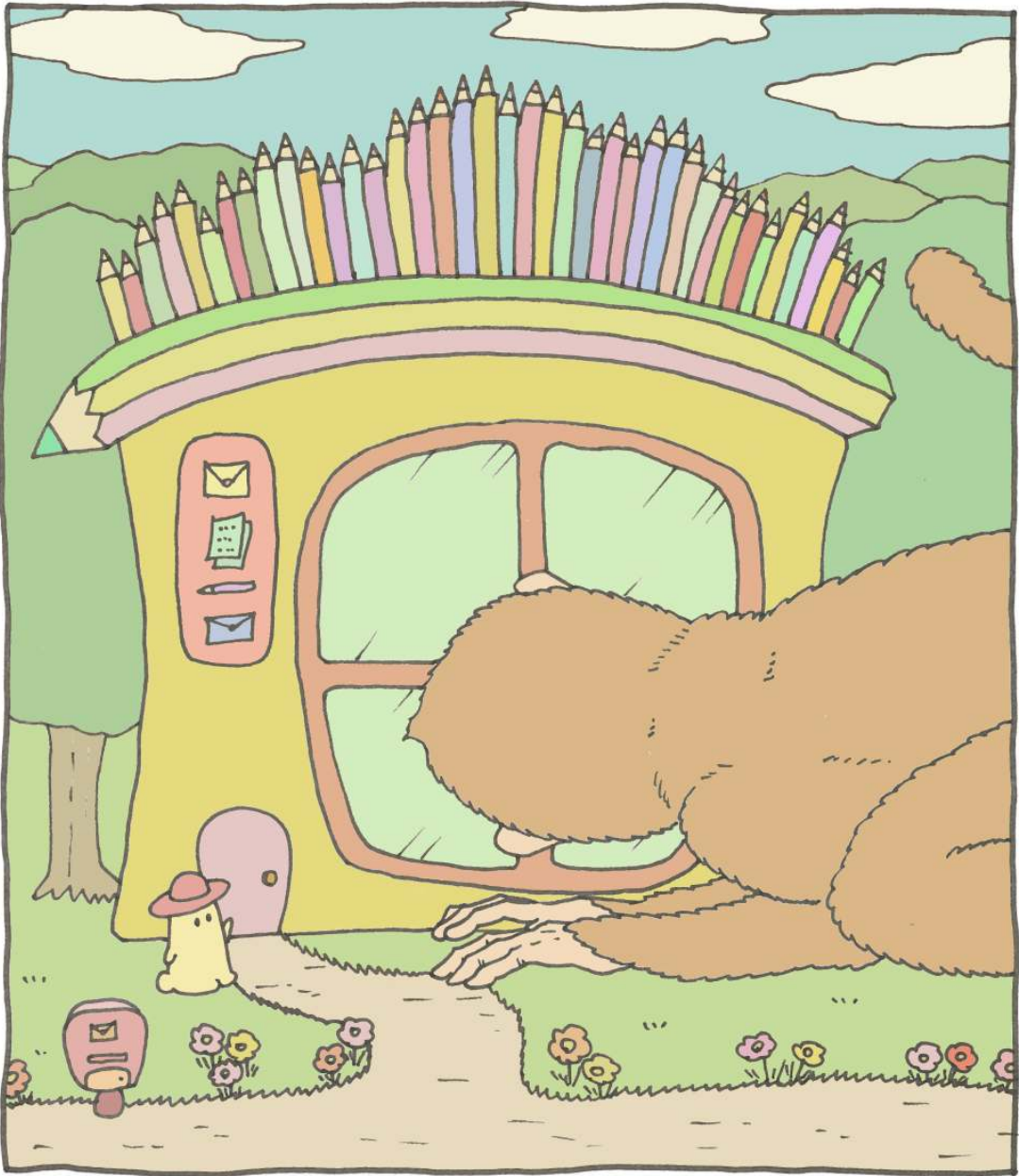
「こんにちわ！」

サルは やおやさんに いる みんなに あいさつ  
しました。

「こんにちわ！」

やおやさんに いる みんなも サルに あいさつ  
しました。





「ここが ぼくが きみに てがみを おくるとき  
つかう ゆうびんきょく！」  
テトが いいました。  
「いいねえ！ みどりか いっぱいで すてきだね！」  
サルが いいました。

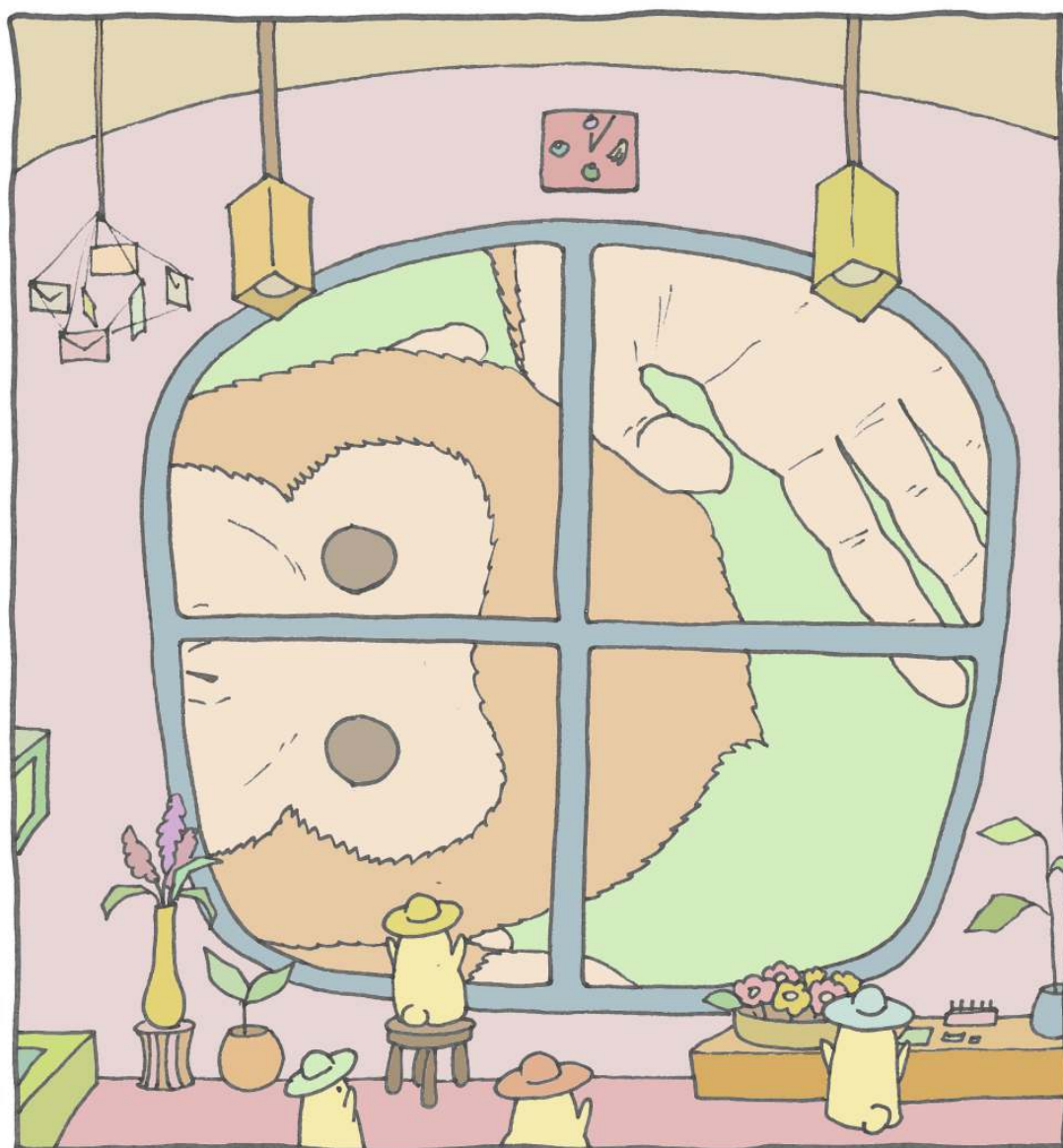


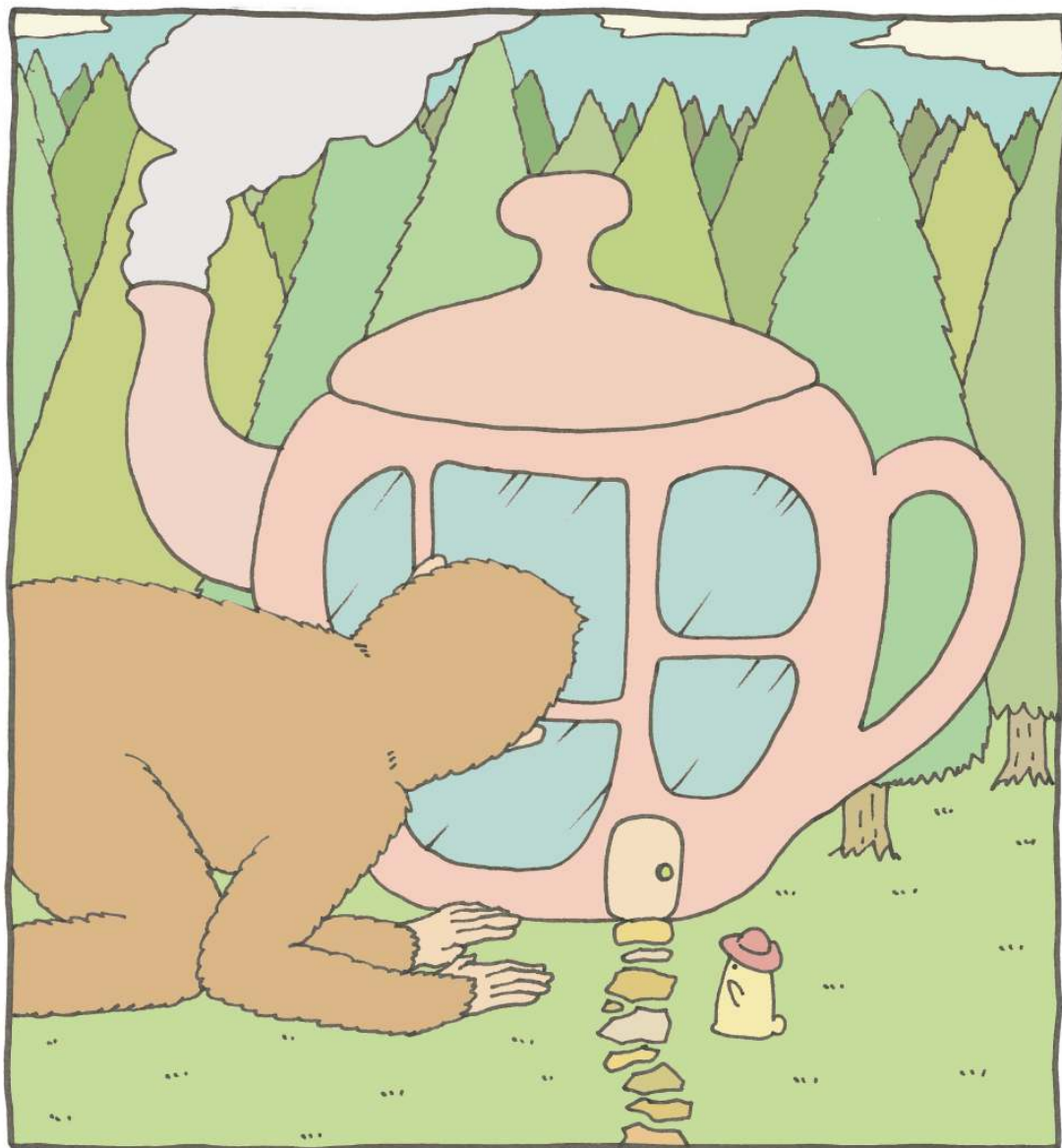
「こんにちわ！」

サルは ゆうびんきょくに いる みんなに  
あいさつを しました。

「こんにちわ！」

ゆうびんきょくに いる みんなも サルに  
あいさつを しました。





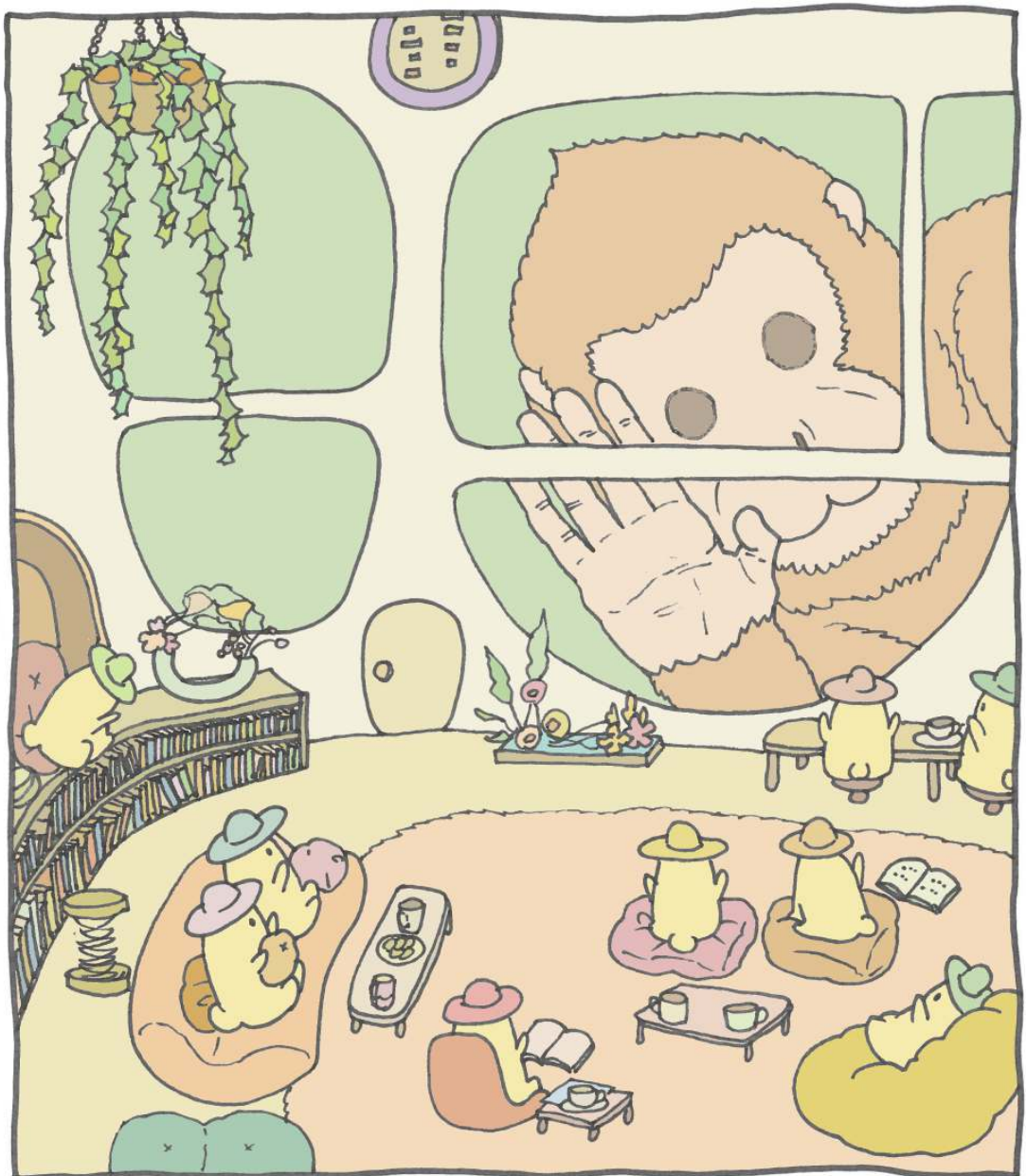
「ここが ぼくのおきにの ぴったり。おいしい こうちゃと フカフカの ソファがあって とても ゆっくり できるんだよ！」  
テトが いいました。  
「いいねえ! とてもいい こうちゃの かおりがするね! スコーンも おいしそうだなあ!」  
サルが いいました。

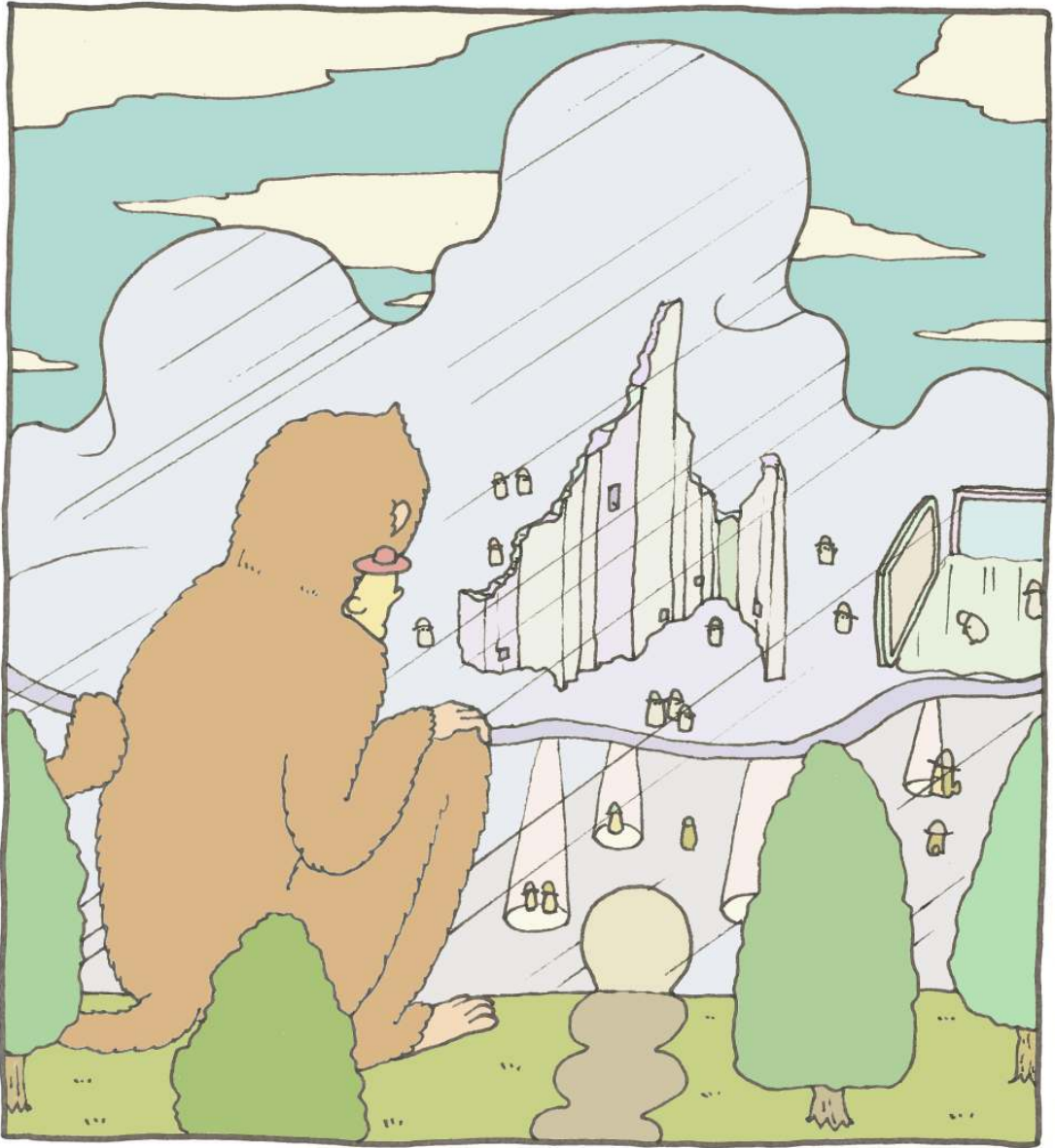
「こんにちわ！」

サルは きっさてんに いる みんなに あいさつ  
しました。

「こんにちわ！」

きっさてんに いる みんなも サルに あいさつ  
しました。





「ここが ぼくの だいすきな コンテンポラリー  
アートが みられる びじゅつかん なんだよ！  
ガラスで できてるんだ！」

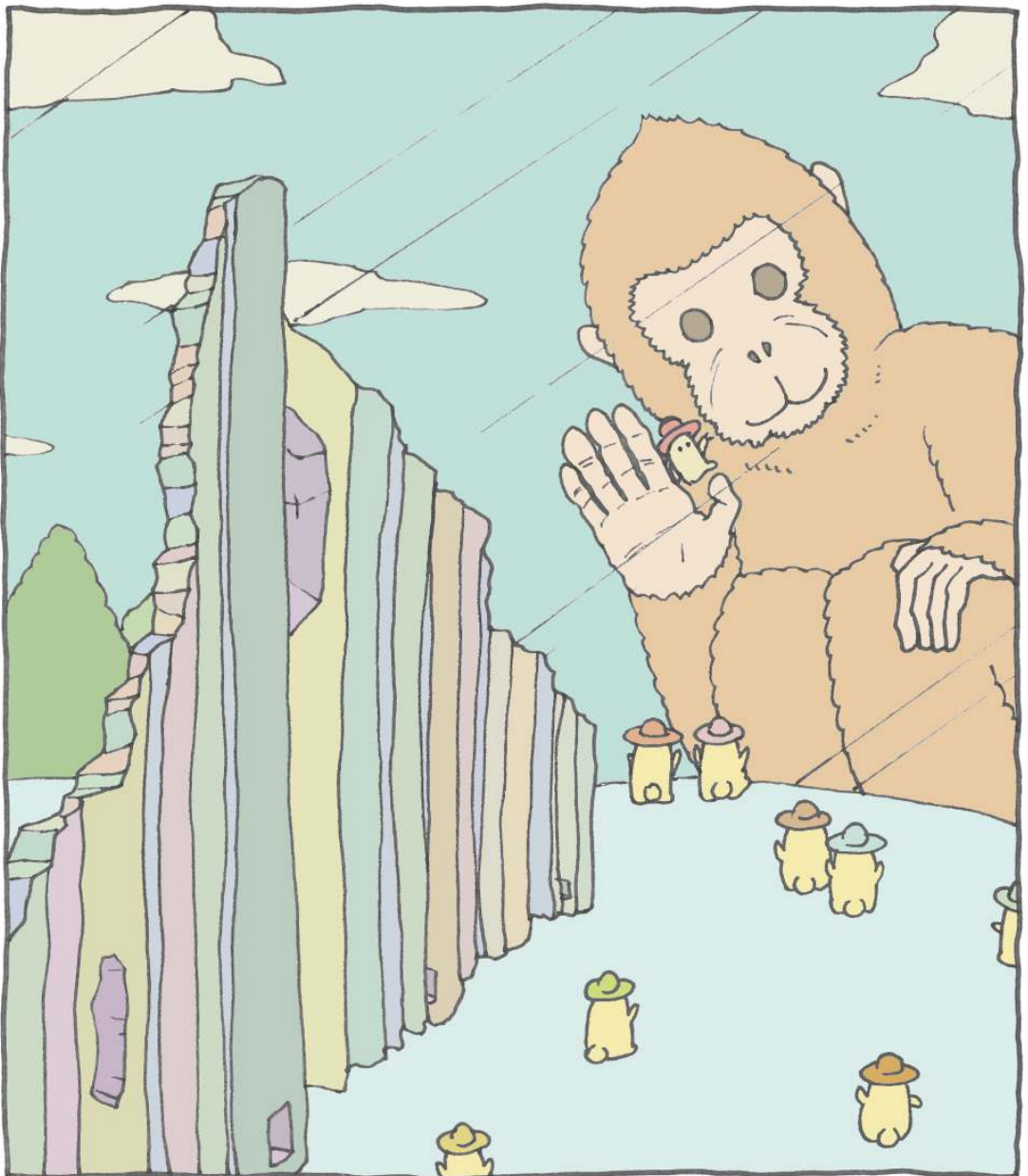
テトが いいました。

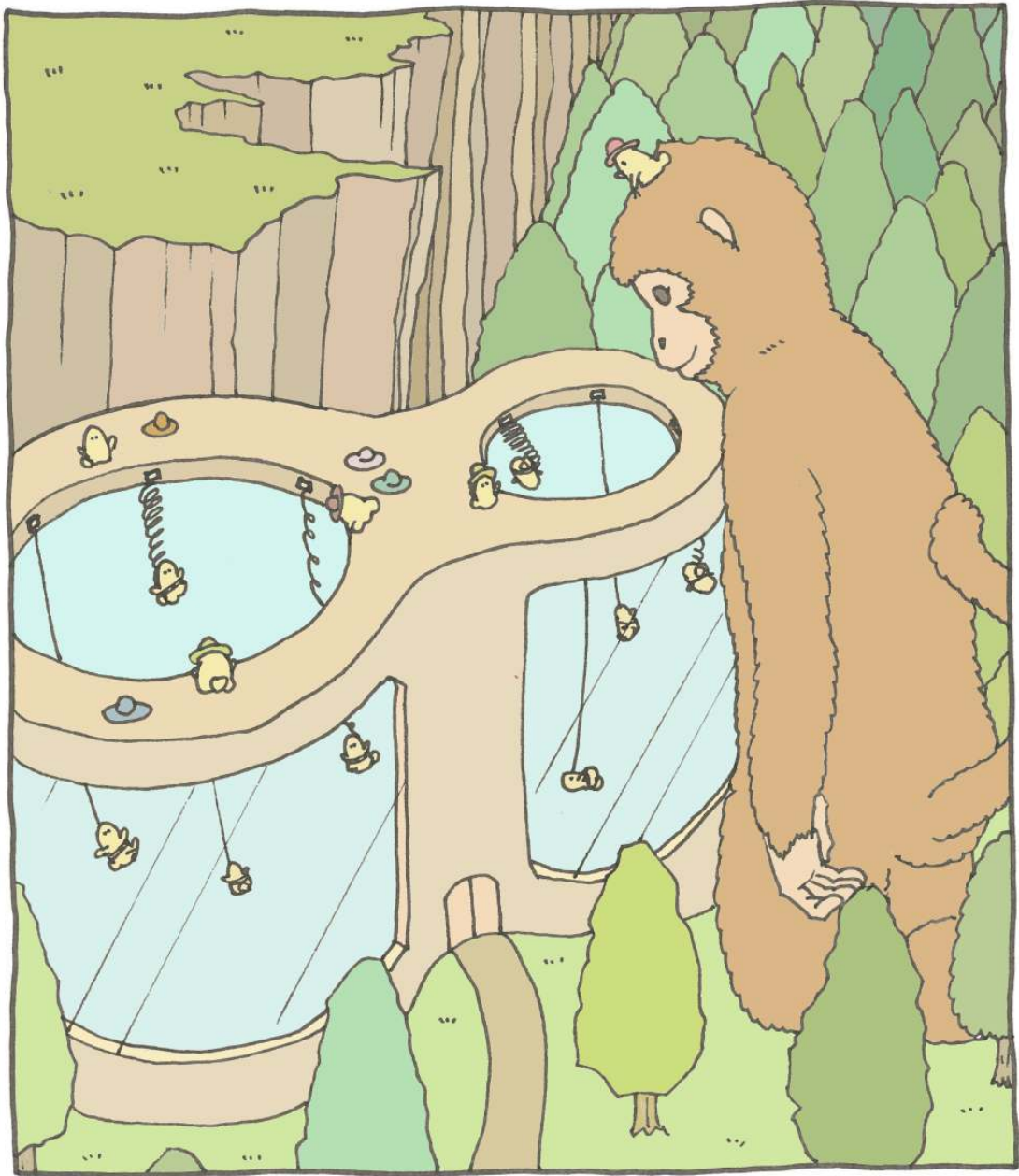
「いいねえ！ こんな たてもの みたこと ないよ！  
すごく すてきな さくひんが いっぱい ある！」  
サルは いいました。

「こんにちわ！」サルは びじゅつかんに いる  
みんなに あいさつを しました。

「こんにちわ、サル！」

びじゅつかんに いる みんなも サルに  
あいさつを しました。





「ここが ぼくが よくいく バンジー ジャンプ  
けんきゅう じょ なんだ!」  
テトが いいました。  
「いいねえ! けんきゅう してるんだ?」  
サルが いいました。  
「うん!」

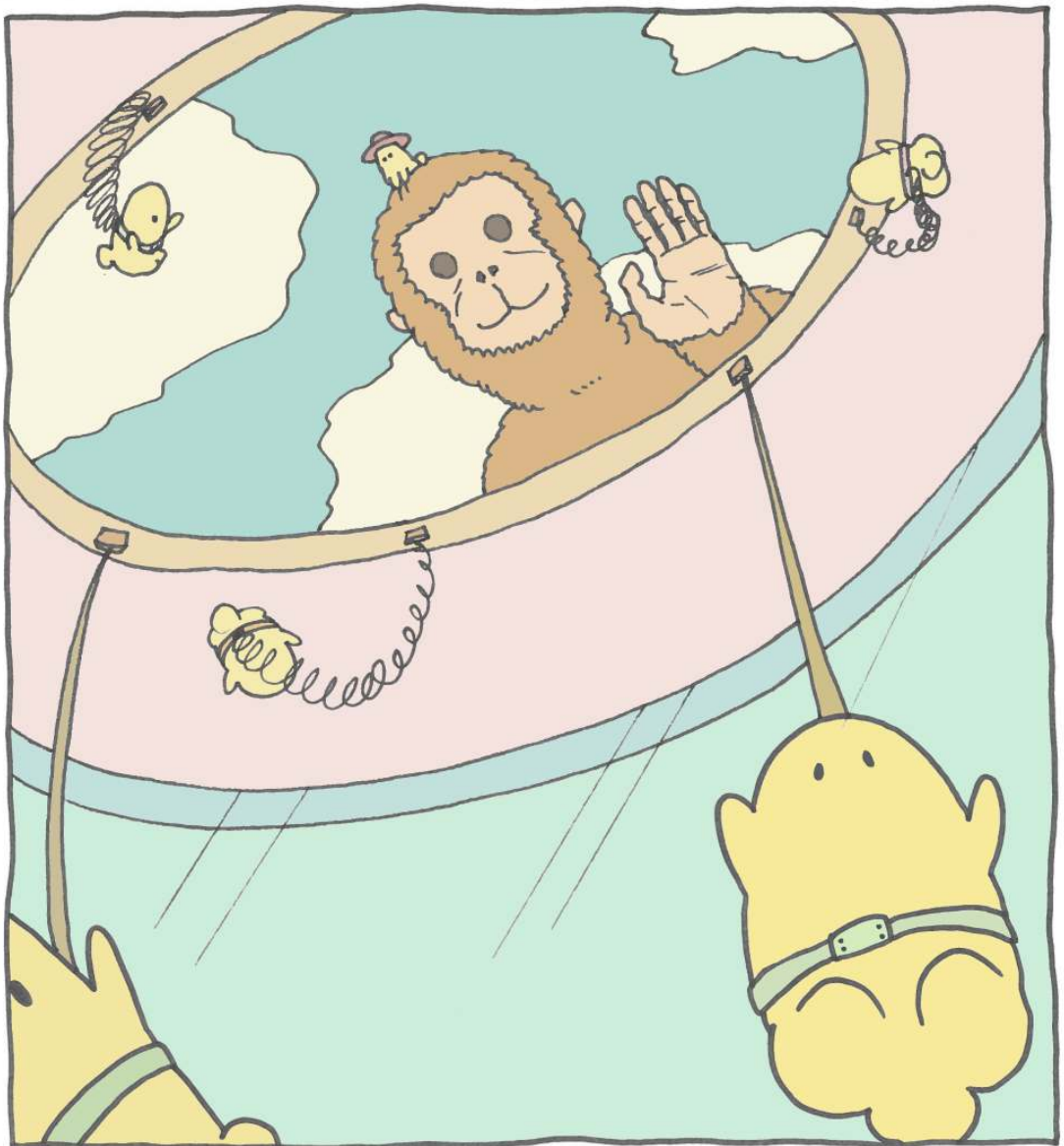
「こんにちわ! 」と サルは いいました。

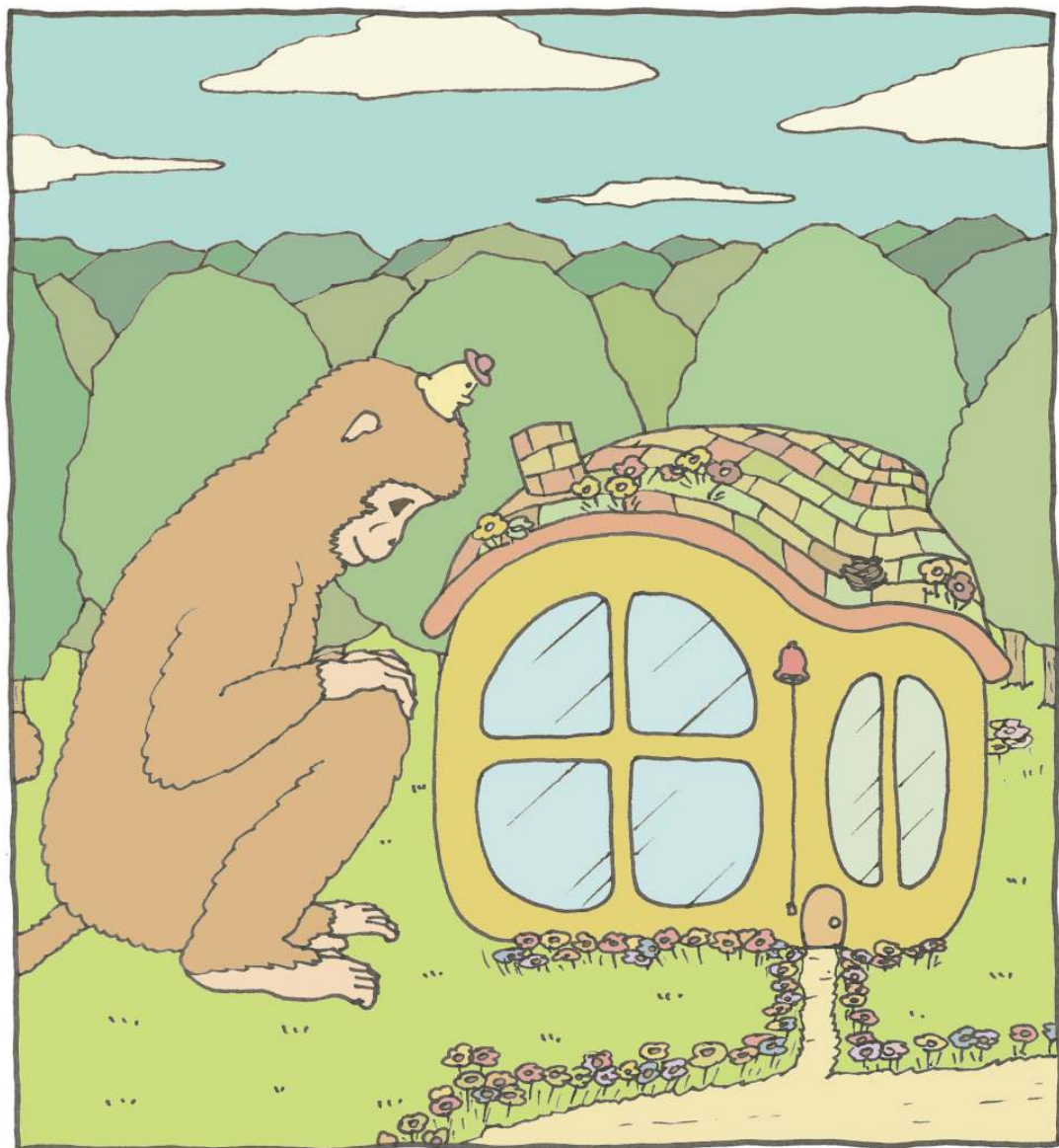
「うわー! 」 「きゃー! 」

バンジージャンプが こわくて あいさつを  
したくても できない テトラが いました。

「サル、こんにちわー! 」

バンジージャンプを していても あいさつを  
することが できる テトラも いました。



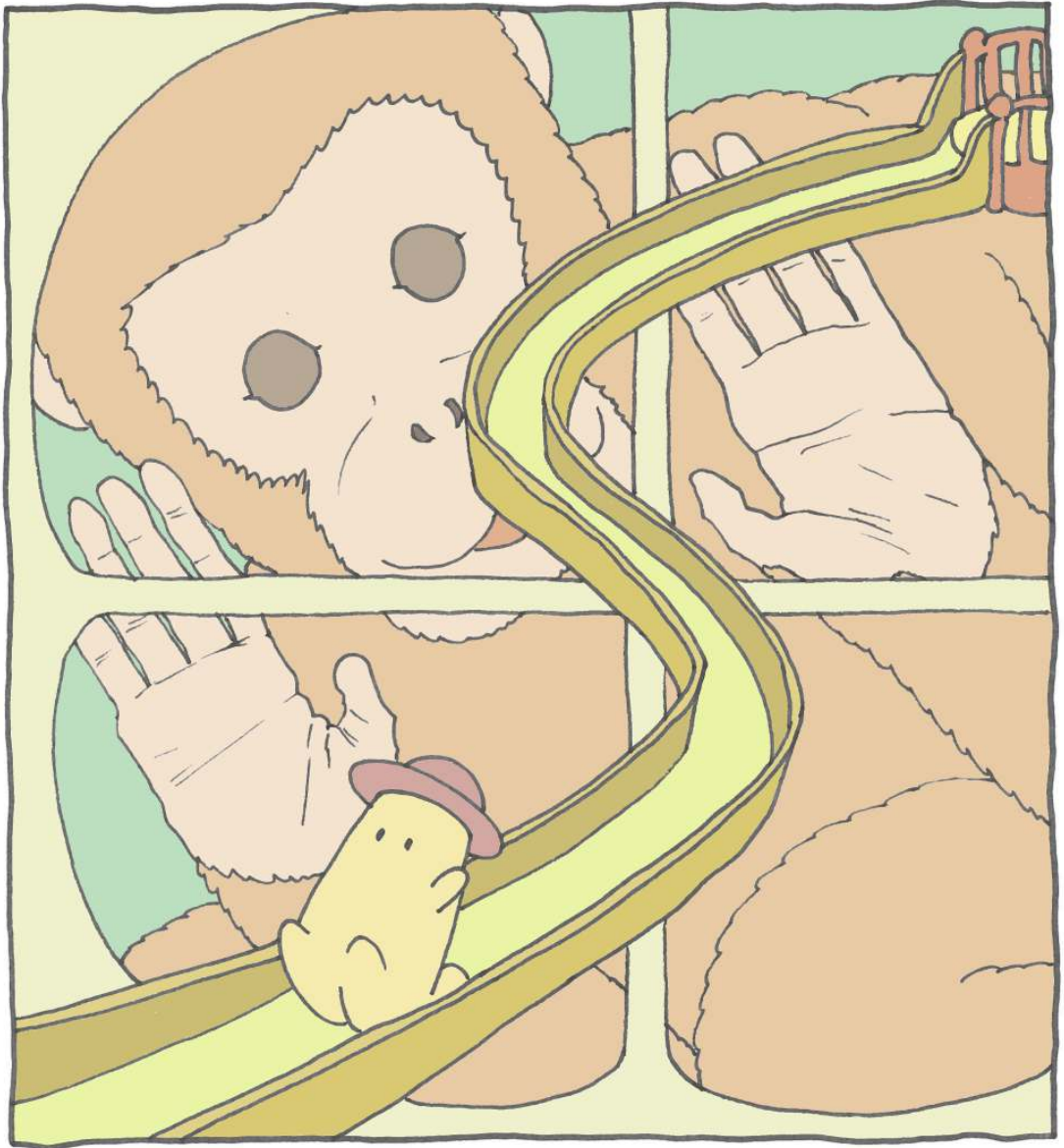


「そして ここが ぼくの いえだよ！ なつは  
すずしくて、ふゆは あたたかいの。とっても  
すみやすいんだ！」 テトが いいました。

「わあ！ ステキな ところだね！ とても きれいな  
にわも あるんだね！」

サルは いいました。



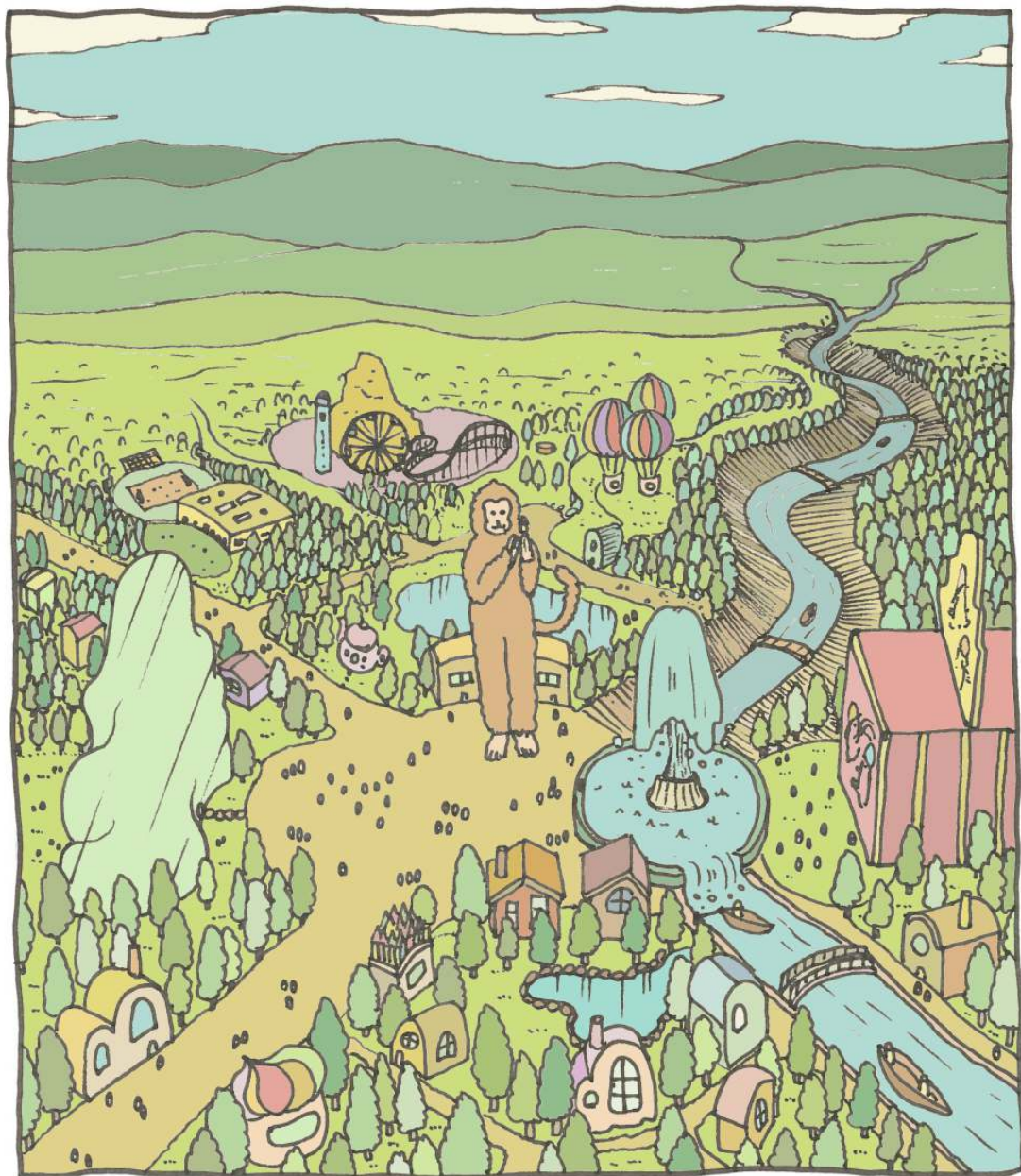


「この すべりだいで まいにち あそんでるんだ！  
きみに おくった てがみにも かいたことがあるよね！」

テトが いいました。

「これが きみの いってた すべりだいかあ！  
いいねえ！ すごく はやく すべれるんだねえ！」

サルは いいました。



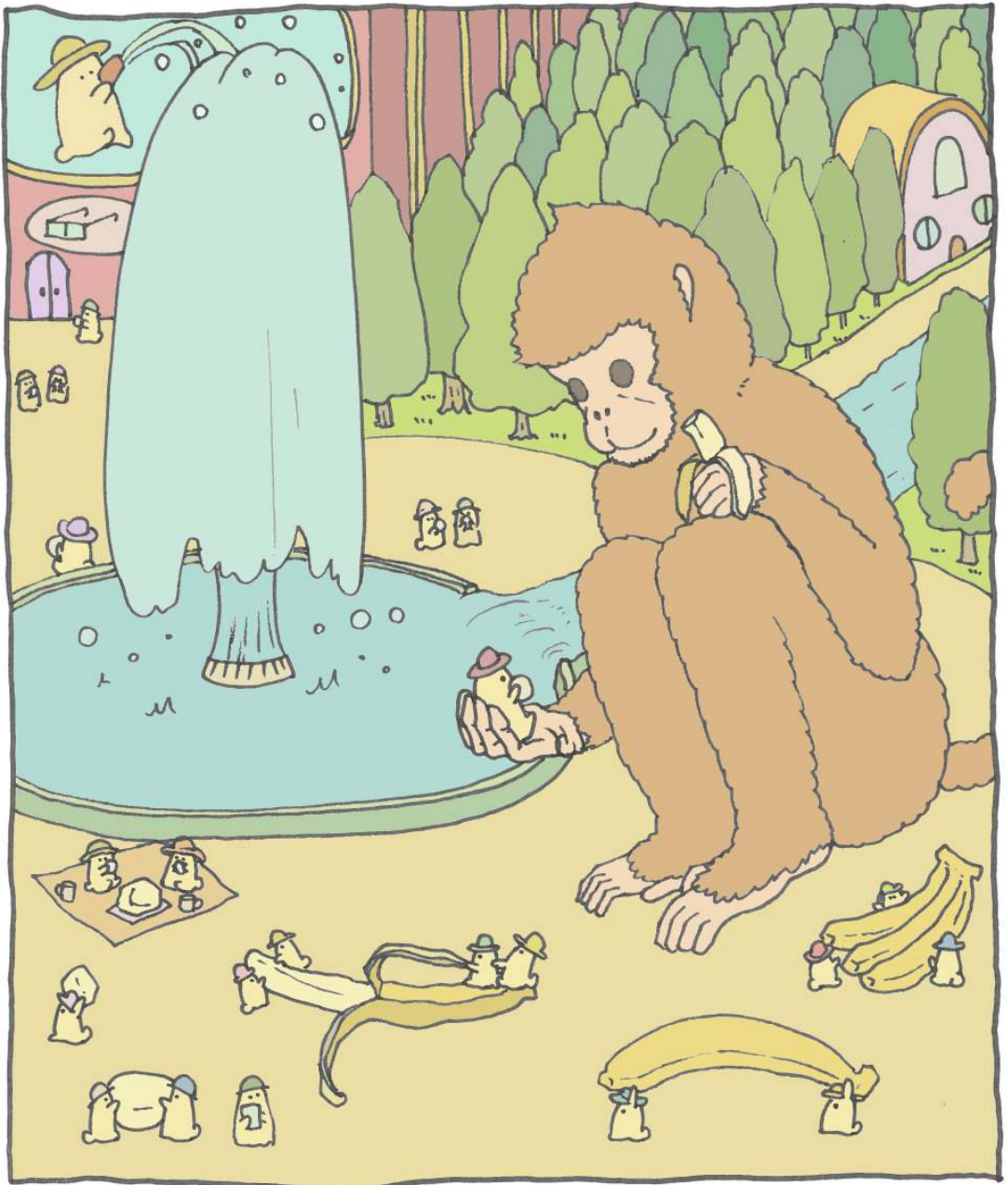
「ここが テトラひろばだよ！ まちの ちゅうしん  
なんだ。」

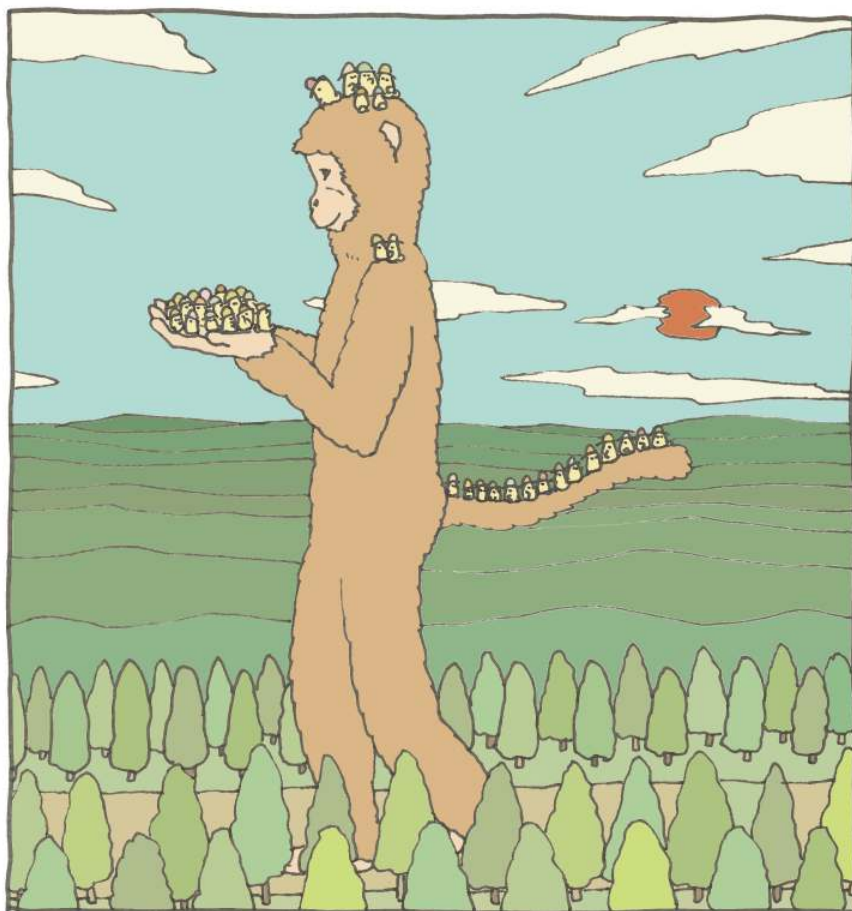
テトが いいました。

「すてきだね！　すごく　いいところに　すんで  
るんだね！」

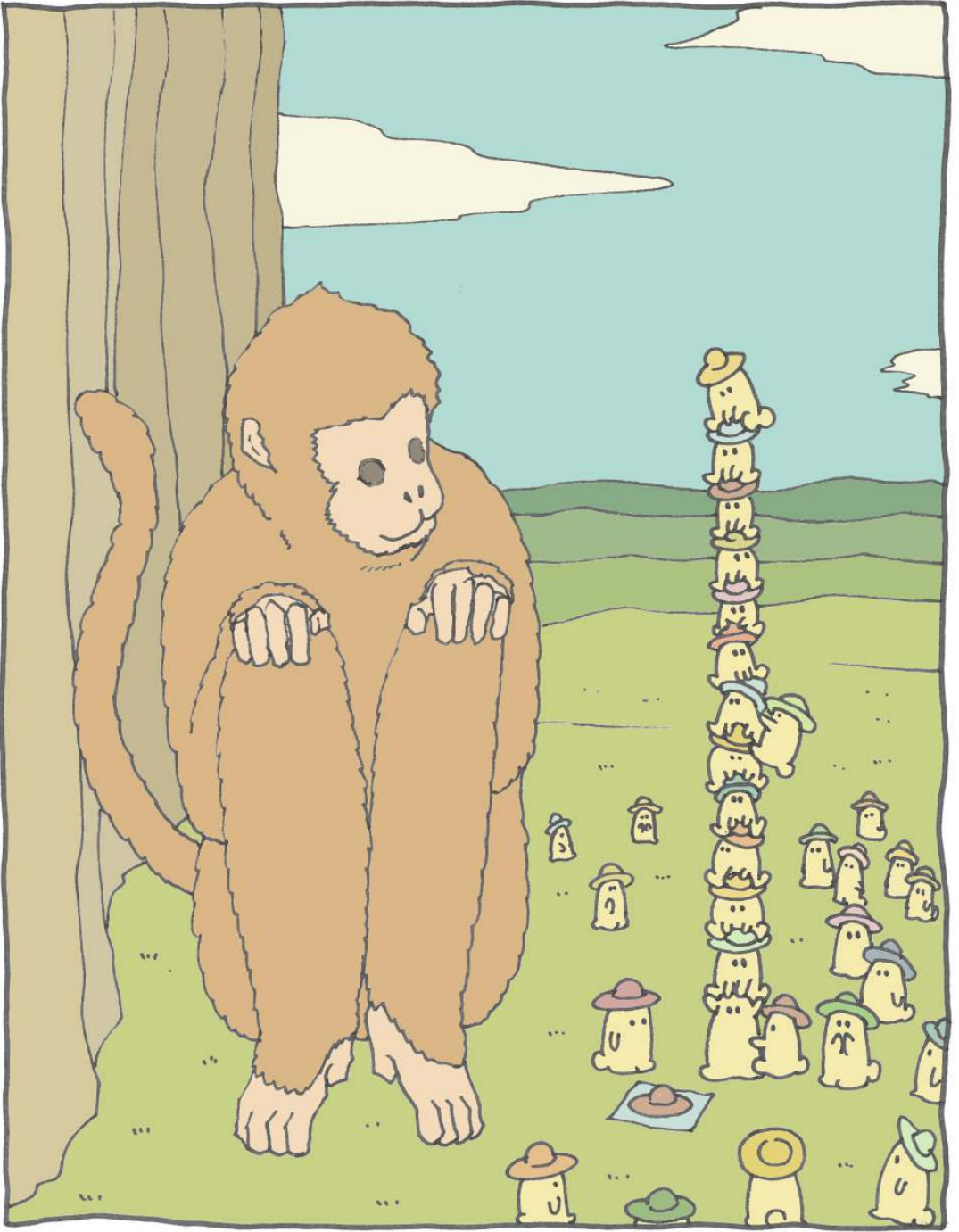
サルは　いいました。

テトとサルは、サルの もって来た おみやげの  
バナナを たべながら たくさん おはなしを  
しました。まちの テトラたちも あつまって  
みんなで おいしい バナナを たべました。

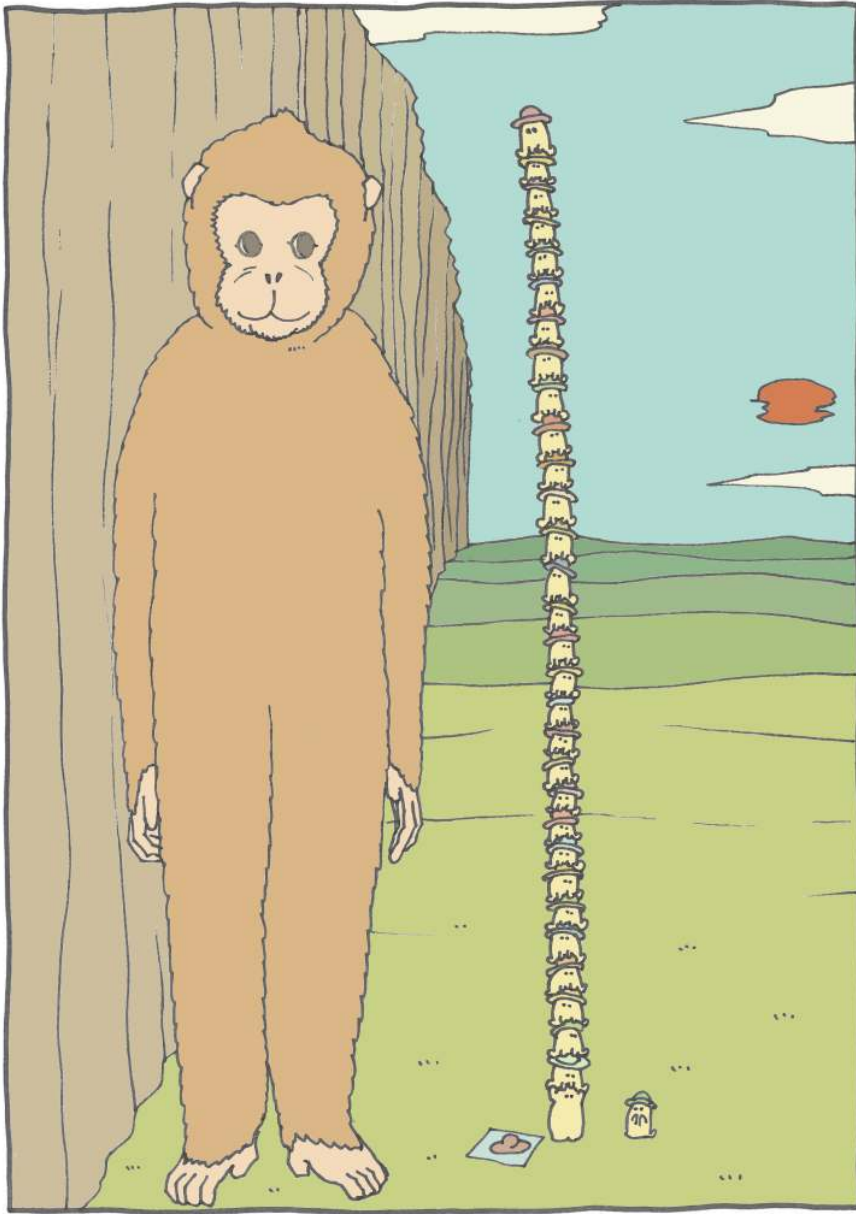




「それで きみは どのくらい せが たかいの？  
ぼくたち なんにん かたぐるま すれば いいの？」  
まちの テトラたちが いいました。  
「じゃあ テトラがけ まで いって はかって  
みようよ。」テトが いいました。  
「いいよ！」サルが いいました。  
サルが どのくらい せが たかいのか はかる  
ため みんなで テトラがけに むかいました。



「1, 2, 3, 4...」



31にんの テトラたちが かたぐるまを した  
ところで やっと サルと おなじ たかさに  
なりました。

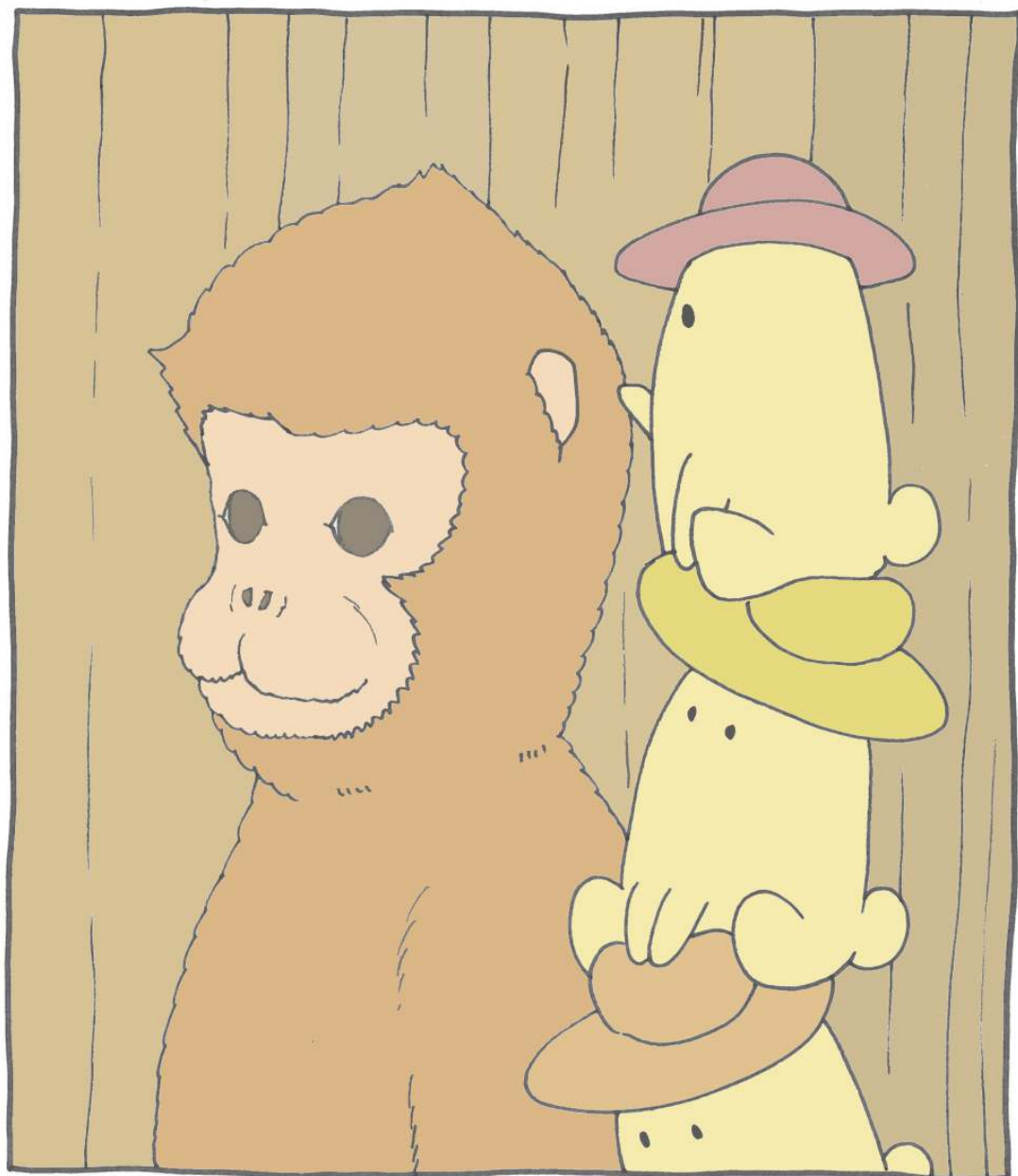
「でも ぼくは もっと せが たかくなるよ。

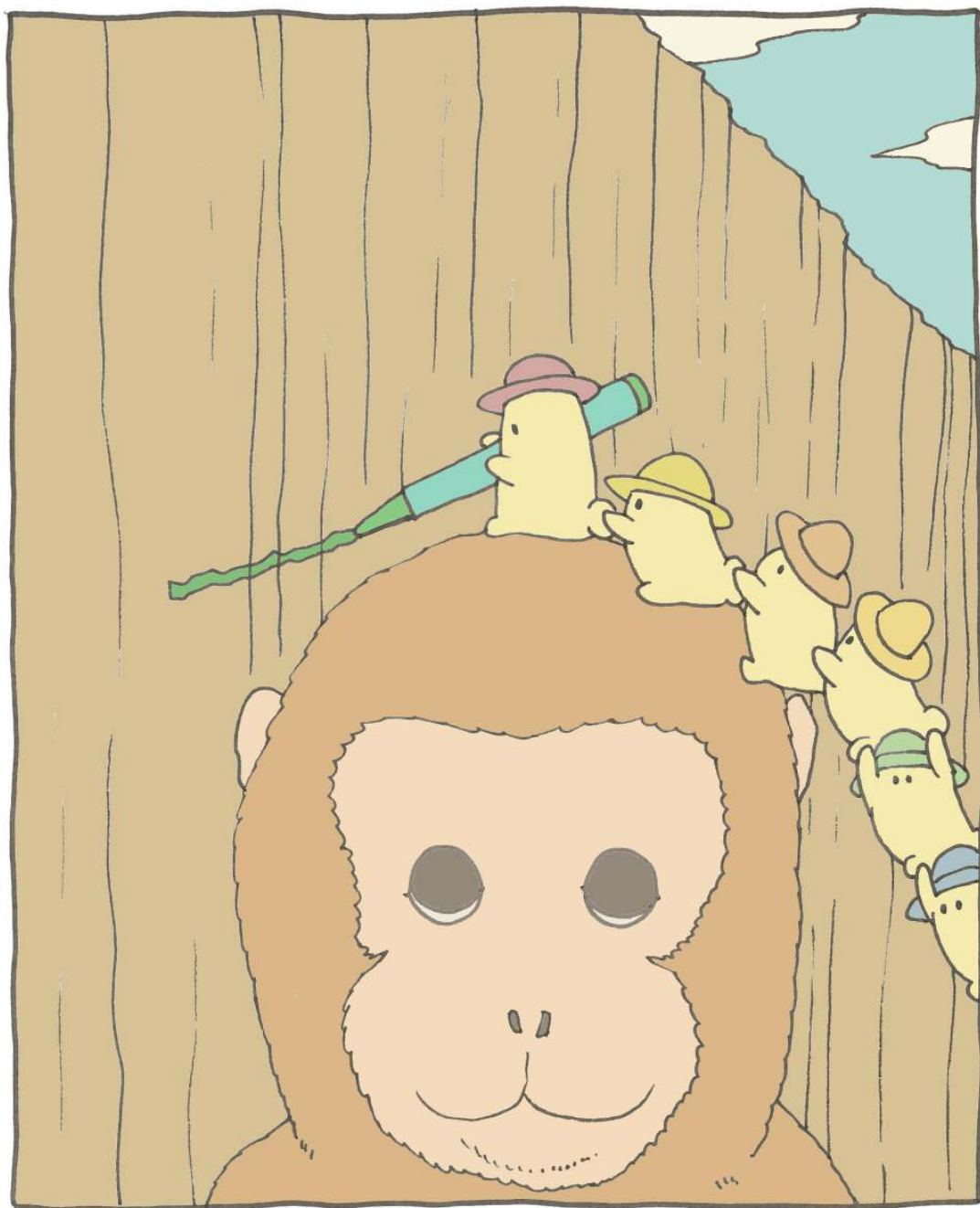
ぼくは まだ こどもだからね。」

サルが いいました。

「そうだね。じゃあ しるしを つけて おこう。」

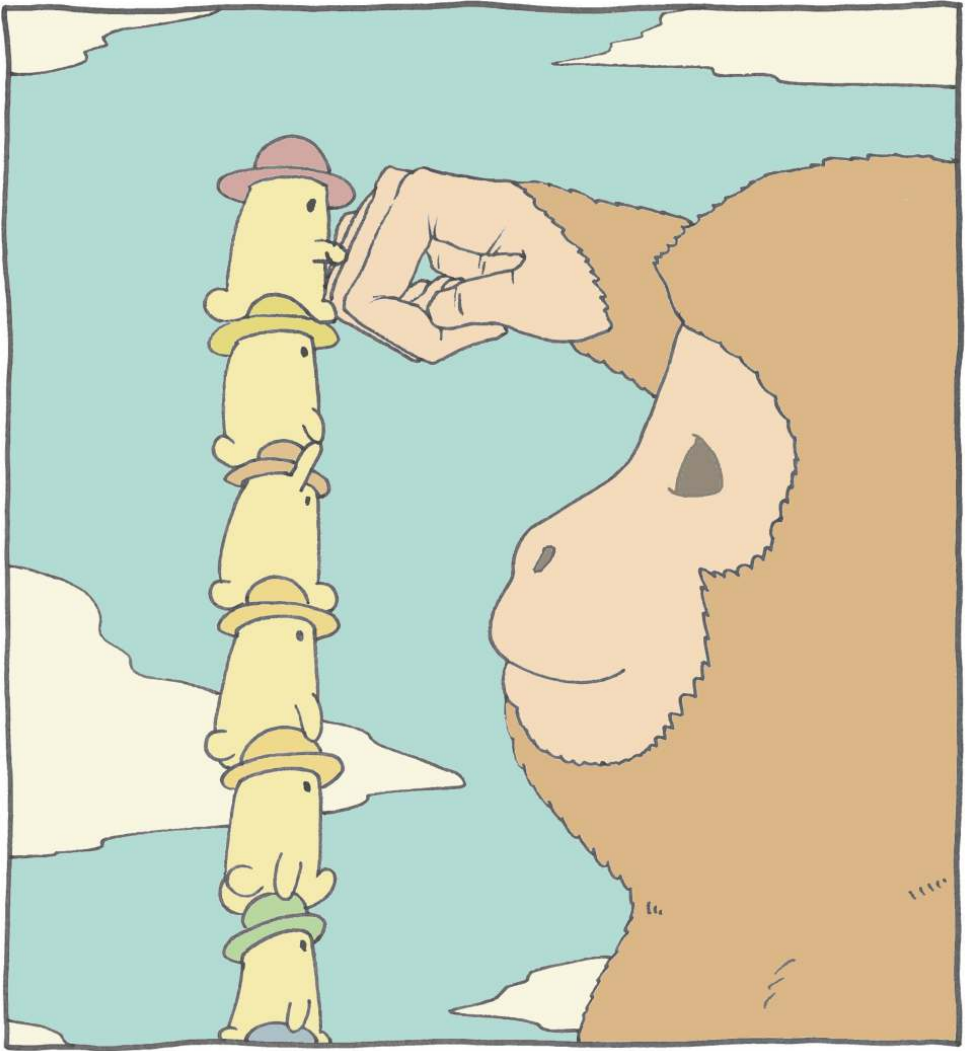
テトが いいました。





テトは テトラがけに しるしを つけました。





「ああ、そろそろ いかなきゃ。」

サルが いいました。

「そっか…。また すぐに あそびに きてね。

せも はかりたいし。」

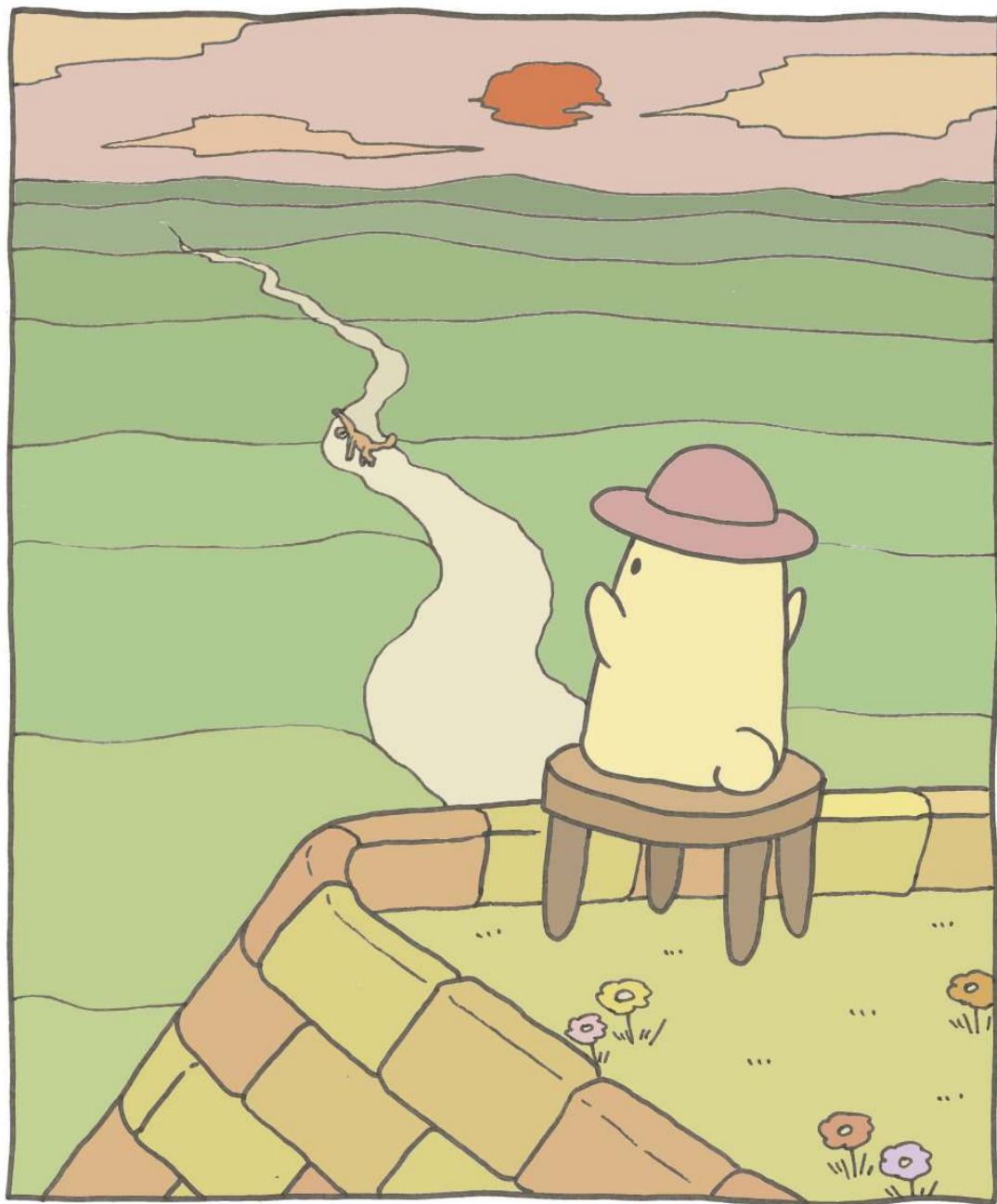
テトが いいました。

「もちろん! また すぐに あそびに くるよ。

せも はかりたいしね。」

「やくそくだよ。」

「うん、やくそく。」



「また すぐに あおうね！」

「また すぐに あおう！」

サルは じぶんの いえに かえって きました。

ふたりは また すぐに あうことになりませんが

それは また べつのおはなし。

